富士山と富士周辺の山々

五周年記念山行文集

△ 岳人あびこ

目　　次

富士周辺の山と富士山について
石老山（新年山行）---------- 1
三ツ峠一黒岳---------- 3
金時山---------- 7
御正体山---------- 11
越前岳---------- 14
菰釣山---------- 18
沼津アルプス---------- 20
蛾ガ岳一三方分山---------- 22
長者ガ岳一天子ガ岳---------- 26
毛無山一十二ヶ岳---------- 28
思親山---------- 32
愛鷹山---------- 34
雨ガ岳---------- 37
八鉱嶺一七面山---------- 39
富士山(A吉田口(河口湖))---------- 43
富士山（D富士宮）---------- 45
富士山(B吉田口(浅間神社))---------- 50
富士山（C須走り）---------- 53
富士山（特別寄稿）---------- 57
地図---------- 58
山行一覧---------- 60

創立５周年記念

富士周辺の山と富士山について

村松敏彦

平成 12 年度の活動計画の中で、平成 13 年は創立５周年を迎える事になるので、山の会らしい行事を実施して 5 周年を祝うという計画大綱が決定しました。数多いプランの中で記念行事委員の投票の結果、今回実施されました「富士周辺の山に登って最後に日本一高い富士山に登って締める」計画が決りました。

５周年記念山行委員

村松 柴 細野(省) 高橋(英) 川下 武内 北川　計７名

＊富士周辺の山とリーダー

	山名	地域	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	ﾘｰﾀﾞｰ
１月	石老山（新年山行）	道志山塊	A	村松(敏)、安田
	三ツ峠ー黒岳	御坂山塊	B	中村(隆)
２月	金時山	箱根	A	細野(清)
	御正体山	道志山塊	B	安田
３月	越前岳	愛鷹山塊	A	武内
	菰釣山	西丹沢	B	柴
４月	沼津アルプス	東海	A	村松(峰)
	蛾ガ岳ー三方分山	御坂山塊	B	村松(敏)
	御正体山（再挑戦）			
５月	長者ガ岳ー天子ガ岳	天子山塊	B	高橋(英)
６月	毛無山	御坂山塊	A	大串(秀)
	思親山	天子山塊	A	斎藤
	愛鷹山	愛鷹山塊	B	清家

７月	雨ガ岳	天子山塊	A	外崎
	八鉱嶺ー七面山	南ア前衛	B	細野(省)

＊富士山のコースとリーダー

８月　８月１８－１９日

富士山(A)	河口湖コース	日下
富士山(D)	富士宮コース	榊原

８月２５－２６日

富士山(B)	浅間神社コース	川下
富士山(C)	須走り口コース	原田(君)

以上富士周辺の山シリーズ（14 山）に延べ約 200 人、最後の富士山 4 コースに 45 名の参加を得て、非常に盛上りました。これも計画、実施等に数多くの努力された、担当リーダー及び積極的に協力を惜しまなかった会員の皆様に誌上を借りて厚く御礼申上げます。

この成功が未来に向けて会が益々発展、成長していけばと切に祈るものです。

＜1月＞　新年山行

石　老　山

(694 m)

ﾘｰﾀﾞｰ 村松敏彦・安田みずほ

Ａ班ﾘｰﾀﾞｰ 原田和昭

新リーダーの緊張感を胸に

２１世紀の幕開けの新しい年、初めての山行で参加者は多く、Ａ，Ｂ，Ｃの班に分かれて行動をする。

当山岳会に入会して始めて、リーダーを命じられて緊張の内に行動する。定刻に登山口に到着するが、まわりの山は先週からの雪が残り気温は零度以下である。

三班のなかでＡ班が先頭を発って歩く。山口から積雪は少ないが雪道で滑りやすい。顕鏡寺に到着するころには身体も温かくなり、雪道にも慣れて歩行は順調である。

顕鏡寺からは大きな奇岩を見ながら進む。北川斜面の急坂の道は一段と残雪が多くあり、しかも、硬く凍っているので滑り易い。アイゼンの装着をどうしようか迷いながら登る。アイゼンを付けないで雪道を歩くのも訓練の内と自分で納得しながら進む。

石老山は今回で三度目の登山で、五年前の公開登山で参加した時は、雨が降り寒かったことを思い出しながら頂上に到着する。メンバーが全員元気に登れて安堵する。

登頂した時は明るく、周囲の山並みも見えていたのに、写真を撮るころには天候は一転して、小雪が舞い始め暗い冬の天気になった。急変する山の天候を実感しながら、全員アイゼンを装着して下山開始する。

下山道にも積雪はあるが、アイゼンがしっかりと雪面を捉え、ヒヤリハットもなく順調に下山する。大明神展望台に着く頃には天候は回復し、空は晴れ渡り、明るい太陽の光が相模湖の湖面にキラキラと輝いていた。

メンバーの脚力は確実に上達しており、積雪の中での登山でしたが、全員元気に下山できた。未熟なリーダーを援助して頂きありがとうございました。メンバーの皆さんに感謝いたします。

湖畔での懇親会は、食担さんの行き届いた気くばりで、美味しい雑煮を頂き楽しい一時を過ごすことが出来た。今回の新年山行から一年間元気で山に登れることを心に願い帰路に着いた。

Ｂ班ﾘｰﾀﾞｰ 松本 豊

”老い”の一部は岩に預けて

５周年記念山行第１弾の石老山は名前のとおり巨岩，奇岩の山であった。残念ながら富士山の姿は見ることはできなかったが“老い”の一部は岩に預けたお陰か足取り軽く山行が楽しめた。先日降った雪があちこちに残っていて山頂よりはアイゼン着用となった。このクラスの山でも場所によっては雪があり冬の山行ではアイゼンの携行は必要であると認識した。

やまなみ　高橋英雄

新年山行　親睦を深める

石老山は中央線沿線の相模湖近くに位置する山で、低山ではあるがハイキングコース、又は軽い登山としても人気がある山である。　この日は朝のうち天気はあまり良くなく暗い気分であったが、晴れることを期待して電車に乗る。相模湖駅からバスで登山口まで。登山道を入ったあたりから雪が残っている。この雪は数日前に降った雪だろう。この雪を踏みしめながらの山行となった。行く手にはその名の通り巨岩がゴロゴロあり、奇岩の一つ一つに工夫を凝らした名前が付けられており、成程と感心しながら登る。石段を登りきった目の前に顕鏡寺が現れる。”時”が偲ばれる落着いた雰囲気のある古寺である。融合見晴台よりの眺めは、相模湖が眼下に、奥高尾の山並は雄大に広がって見えた。山頂では南側に蛭ヶ岳や丹沢方面の山並が見られたが、念願の富士山は見る事ができなかった。残念。　山並を眺めていると小雪が降りはじめ寒さも増し、下山に際し各自アイゼンを付ける。思うように取付けることができず困っていると、普段の練習しなければの一言あり（リーダー部長)。下山の支度をして各班ごとに出発する。下山の途中にも雪が残っているので歩行に注意する。この時間帯から天気もやや回復しつつあり親睦会を楽しみに、バス停まで急ぐ。各班の間隔が拡がったためバスに全員乗ることができず、若干トラブルがあったが数分後には全員が無事に相模湖畔に集合できたことはなによりでした。早速親睦会となり、4 期生に食担をお願いしてケンチン汁、お雑煮等がふるまわれ美味しいご馳走であった。やがて記念写真となり、意義のある山行であった。

概　　要

山行形式　日帰り
期　日　平成 13 年 1 月 14 日（日）
山　域　道志山塊
目　的　新年山行・五周年記念
参加数　28 名
コ　ース
我孫子駅(5:33)⇒相模湖駅(7:35/7:58)⇒ﾊﾞｽ石老山入口(8:05/8:15)～登山口～顕鏡寺～見晴台～石老山山頂～大明神展望台～ﾋﾟｸﾆｯｸﾗﾝﾄﾞ前歯ﾊﾞｽ停⇒ﾊﾞｽ/ﾀｸｼｰ/徒歩⇒相模湖公園（親睦会）（12:15/12:40)～相模湖駅(14:58)⇒我孫子駅(17:01)

＜1月＞

三ッ峠山～御坂山塊

（1,786m）　（黒岳 1,793m）

ﾘｰﾀﾞｰ 中村隆泰

突然の雪に
コース変更に悩む

天気予報は一日目午後から二日目午前にかけて曇りで、大事な時間帯（富士展望）に雲が…と家を出るときから気分が晴れなかった。西国分寺駅で小さな異変？　いつもはかけこんでも間に合わない電車に乗れた（実は JR の時刻改定）。お陰で予定より 30 分早く歩き始めることができた。1時間ほど車道歩きを強いられ、達磨石から急登にかかる。雪混じりの山道には凍結や崩壊地もあったが、よく整備されていて順調に登る。小屋に着くと、２１日は晴れだという。低気圧の通過が少し早まったらしい。その予報を聞いて写真マニアの人たちが夜半から明け方にかけてどんどん上がってくるとか。事実、夜半大雪の中を小屋に着く人が何人もいた。夕食までこたつを囲んで歓談、ロープ結びの実習などして過ごした。

翌朝、外を見てびっくり、快晴なれど雪深し。夜中に降った雪は 30cm 以上。朝食前に、寒風吹きさらしの山頂で日の出を待つ。朝日に色づく富士山を見て、みんなでバンザイ、南アルプスにも照明があたり、山々が輝いて見えた。

その頃リーダーの私は、今日進むべきコースに思い悩んでいた。この積雪では予定の全行程を踏破することは無理である。ショートカットするとしたら、一つは「三ッ峠山荘～御巣鷹山～御坂尾根分岐～天下茶屋分岐」を「三ッ峠山荘～天下茶屋～天下茶屋分岐」に、もう一つは「御坂峠～黒岳～広瀬」を「御坂峠～三ッ峠入口」とし、黒岳を省略する。どちらも捨て難いが、今回の目的の富士展望のため、黒岳優先を決心し、朝食時皆さんに確認した。

この日はコースのほとんどがラッセルで、しかも、何人かはぽっくり下駄に悩まされた。広瀬へ降りる途中で武藤さんがアイゼンにガムテープを巻くアイデアを提案、応急処置としては良好であった（サイクリングで応急処置用にいつも携行の由、山でも有効かも）。

悪戦苦闘しながらも、大きな富士山の声援を受けて御坂山、黒岳経由広瀬へ無事下山することが出来た。しかし広瀬の野天風呂に入る時間はもうなかった。

やまなみ　高橋芳恵

表登山道より三ツ峠山へ

1 日目　西国分寺で予定より早い電車に乗れたので、三つ峠駅には 30 分早く着くことができた。電車の中よりも真っ白な富士の雄姿、登山口までの道すがらの富士もまた良し。三ツ峠山は三つの峰より成り、開運山（1785.2m）、木無山（1732m）、御巣鷹山（1775m）の三山を合わせて三ツ峠山という。

車道歩き 50 分程で いこいの森 に至り、さらに 15 分の達磨石より急登となった。大曲、馬返しの急坂をジグザグに喘ぎながら登っていく。先頭を行くリーダーは「もう少しでお昼にします。」と疲れを知らぬ様子で、必死に付いていくのが精一杯。うんざりした頃に八十八大師の広場に着いた。リーダーは前もって昼食場所を調べてあったのだと大きく納得。八十八大師は名前のとおり何

体もの石仏や地蔵が並んでいる面白い場所で、時間があればゆっくり見たいところだ。さらに進むと屏風岩にいたり、そびえ立つ巨岩に圧倒された。ロッククライミングで有名な場所とのこと。名前に似合わずなかなか硬派の山である。空模様が怪しくなってきたので三つ峠小屋に急いだ。小屋に荷物を置き、開運山に登った。頂上で方位盤を確かめ、改めて富士に敬意を表した。すそ野を広げた富士の姿は例えようがない。

小屋は登山客が少なく、二階の二間続きの広い部屋でコタツを二つ繋ぎ、午後二時よりゆっくり交流会となった。話は大いに盛上り、発展してロープの結び方、片方を固定して片手で体にロープを結ぶ方法と実践さながらの研修会となった。コタツを囲んでゆっくり語り合う機会は初めての経験であり、とても楽しかった。外ではかなりの雪が降り始め、明日が案じられたが、小屋の主人は「明日は最高の天気になるよ」と自信満々の様子。甲斐犬の ごん も「そうだ、そうだ」と言うかのように尻尾を振っていた。夜遅くなって、写真マニアの数名が翌朝の富士の撮影のため小屋に駆込んだりしていた。

素晴しいご来光と暁の富士を拝し、雪道をラッセル

2日目　5時半起床。ご来光を拝すため開運山に6時20分着。昨夜の雪は30㎝程積った様で新雪のなかを人の踏んだ後を見つけて、ずぼずぼ進む。ご来光まで吹きさらしの頂上でひたすら待つ。東の空がうっすらと茜色に染まりだし、富士もまた紫色からピンク色に刻々と色を変えながらの光のファンタジーは素晴しかった。「こんな見事な富士を見るのは生れて初めて。」と心底思った。全員で「富士山」を合唱、そして万歳三唱。

小屋に帰って朝食を摂り8時5分に出発した。積雪が多く、計画ルートを変更し三つ峠登山口に一度下山し、天下茶屋より御坂山に登るコースをとる。雪は思った以上に深く、ラッセルに苦労したが、皆元気に前進、前進。

御坂峠で昼食。アイゼンにつく雪が団子状になったと笑い合う。武内さんが甘酒を、武藤さんがコーヒーを用意して下さり、その美味しかったこと。感謝、感謝。黒岳まであと1時間と気合を入れて出発。しかし積雪はさらに深くなり、なかなか思うように進まない。おまけに私のアイゼンはプレートを張っていない為やたら着雪し、靴がかなり思い。予定より時間をかけ黒岳到着。みんなで握手。その先の展望台からの、河口湖と共に現れた富士山は絶景そのものであった。下りは展望台の先をそのまま下りるルートをとる。南側斜面で積雪は少なかったものの、湿った雪と土とが余計にプレートなしのアイゼンにからみつき、ぽっくり靴さながらに歩いては滑り、滑っては転びの連続で「どうすりゃいいのよ」と泣きたくなった。武藤さんの考案でプレートの代りにガムテープを巻いてみたらということになり、試してみると何とかいけそう。しばらくの間は効果があった。しかし何よりの効果はその間に、アクシデントが起きた自分自身をパニック状態から冷静さを取戻したということ。その後は滑ったり転んだりしながらも、一足歩く度にストックで泥を払い、また一足歩き、ストックで払いの要領で、何とか下山することができた。広瀬5時着。その間、村松リーダー部長より付きっきりのご指導をいただき、ストックワークや下りの歩き方など教えていただくことができ、大変良い勉強をさせていただ

いた。装備の点でもプレートを着けていないなど不備があり、帰宅後即対応した。ただでさえ、雪のため時間が掛っている上、私のアクシデントも重なり、皆さん楽しみにしていた温泉には入れず、ビールとそばで乾杯し無事を祝った。

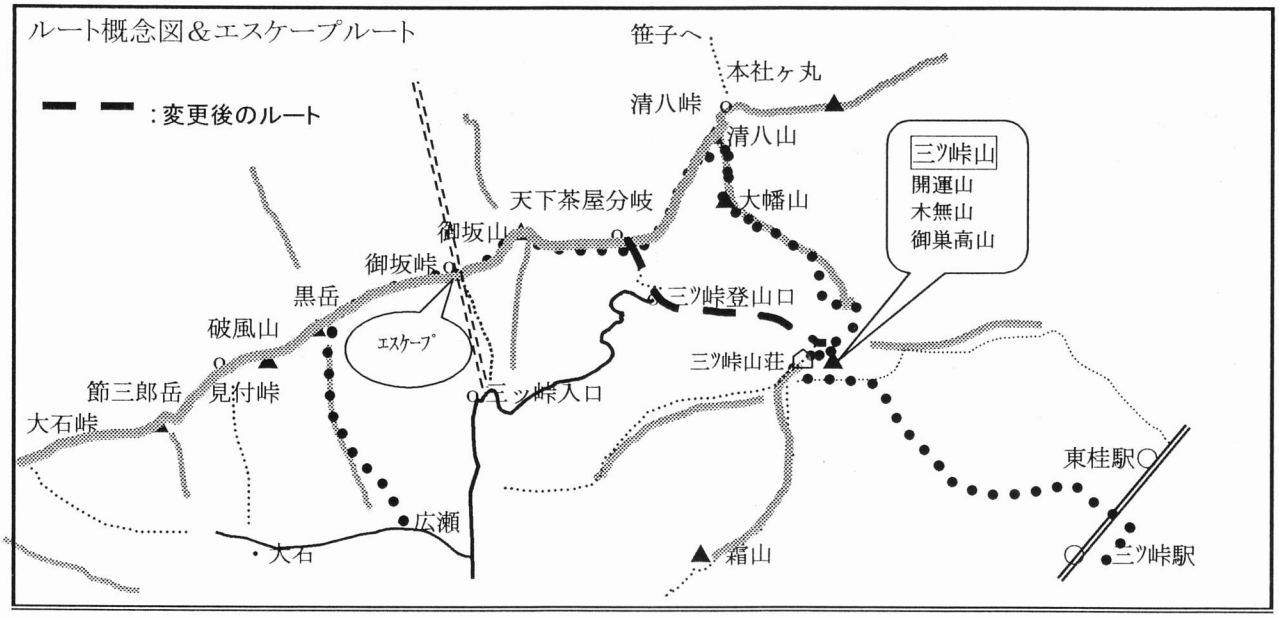
「皆様、本当にお世話様でした。」

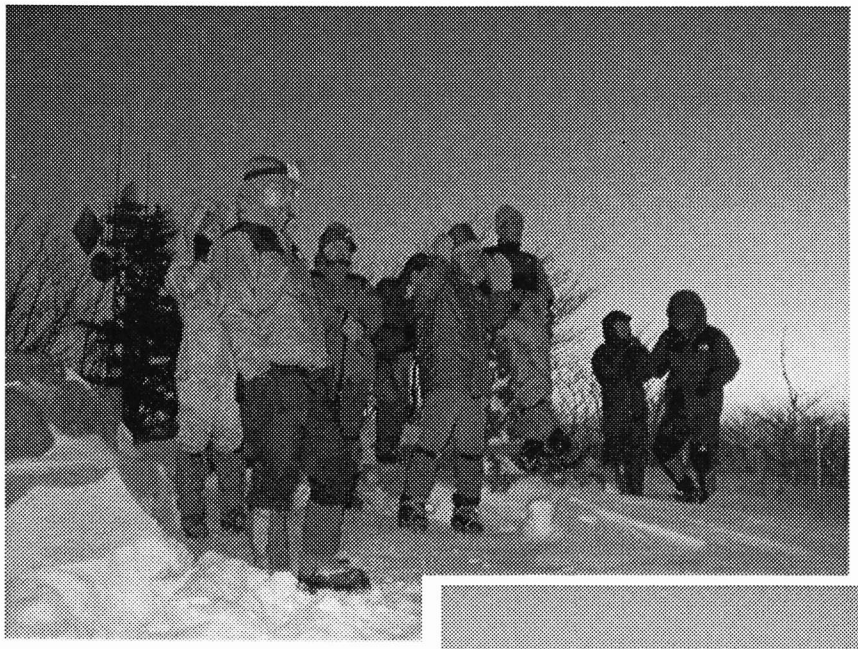
この日、一日中、富士は私たちに微笑みを送り続けて居てくれた。今日のように夜明けから夕焼の富士を見続ける経験も有難いことではないだろうか。

「今日の幸せに乾杯！」

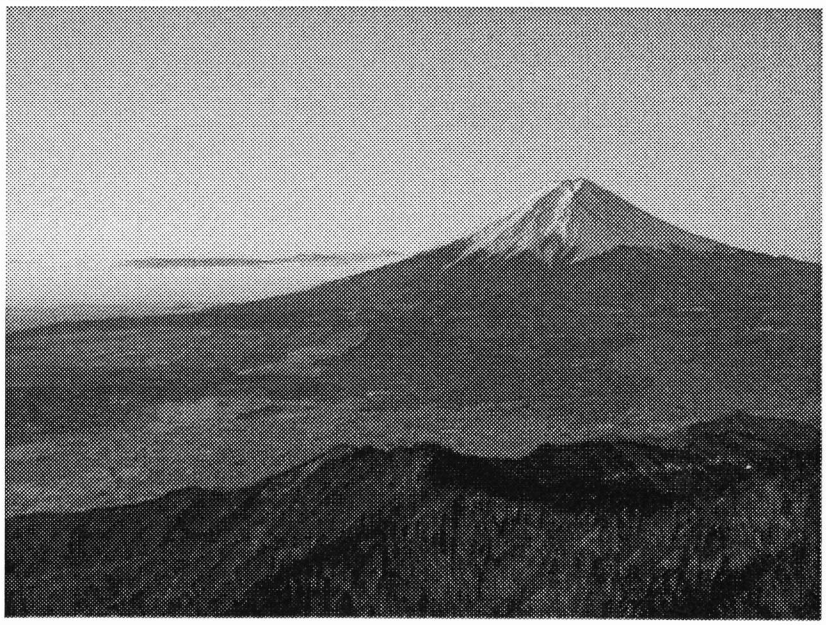
概　要

山名	三ッ峠山～御坂山塊(B)		山行形式	山小屋
期日	平成13年1月20日～1月21日			
山域	富士周辺	地形図	河口湖東部、河口湖西部（２万５千図）	
目的	富士山展望。創立５周年記念山行シリーズ。		費用	14,500円
歩行時間	１日目　4:35（ﾈｯﾄ3:50）、標高差：1,176m ２日目　8:55（ﾈｯﾄ7:15）			
ﾘｰﾀﾞｰ	中村（隆）	参加数	12名	
日程コース	１日目	(我孫子駅(千代田線) 5:33=新松戸=西国分寺6:46=高尾7:10/7:12大月7:50/7:52＝三ッ峠駅8:20/8:35～達磨石9:50～股のぞき10:25/10:35～八十八大師 11:35/12:00～三ッ峠山荘 12:55～三ッ峠山（開運山）13:10　三ッ峠山荘泊（夕食18:00)		
	２日目	山頂6:20、ご来光6:49～三ッ峠山荘(朝食7:05)8:05 出発 ～三ッ峠登山口 8:55～天下茶屋 9:25/9:40～天下茶屋分岐 10:05～御坂山 11:05/11:15～御坂峠 11:55(昼食)12:45～黒岳 14:05/14:20～展望台14:25～広瀬17:00そばﾀｲﾑ－(ﾀｸｼｰ)－河口湖駅18:42＝大月19:53＝我孫子22:28着 （計画）三ッ峠山荘～御巣鷹山～御坂尾根分岐～天下茶屋分岐 〔コース変更〕積雪を考慮し、御巣高山から北へ下るコースをやめ天下茶屋経由に短絡。コースタイム1:15短縮。雪による遅れ　約２時間。		





ご来光



朝日に輝く富士山

＜２月＞

金　時　山

(1,213m)

ﾘｰﾀﾞｰ 細野清子

乙女峠でついに･･･
嬉しくて大合唱三回

金時山は箱根外輪山にある顕著なピークで，昔は猪鼻獄と呼ばれていた。童謡「金太郎」でお馴染みの、坂田金時が、幼児期この山でサル・クマを友として錬成し，源頼光に四天王の一人として登用されたという伝説から，金時山といわれるようになったらしい。また、戦後山頂の茶屋に若い小見山妙子さんがけなげにも一人で住み、「金時娘」といわれてハイカーの人気が高まった。
金時山は、明神ｶﾞ岳・明星ｶﾞ岳・矢倉岳などの外輪山中最高峰の山頂は，富士山の絶好の展望台である。だからこそ５周年記念山行シリーズのひとつに数えられたのであろう。初めて金時山に登った時、眼前に迫りくる富士の勇姿にいたく感激し、頂上で見惚れ時の過ぎるのを忘れた事を思い出す。関西の人の多くが富士に憧れるように、京生まれ京育ちで富士山に憧れ，高速から見える遠くの富士にも「富士山が見えたと興奮してしまう姉」と数年前、一緒に金時山に登ったことがある。首都高から見える富士でなく大きな大きな富士山に感激し、何度も「いいわぁ～登ってきてよかった」といっていた。どうぞ、今回もりっぱな富士が見られますように。

小田急線小田原駅で，箱根登山鉄道に乗りかえる。小田原駅からバスで仙石までが座っていけてよいと本にあった。バス会社に問い合わせたところ、交通渋滞でバスがおくれることもありえるので，湯本まで電車で行くのが確実です，と教えてくれた。小田原駅についたトタン、湯本行きの電車の発車のベル。斎藤さんの忠告どおり１番前に乗っていてよかった。登山鉄道の駅名や地名は「箱根駅伝」にとおる地区でなじみぶかい。１台速い電車にのれたおかげでバスまで３０分くらい余裕がある。待つ時間がもったいなし料金もあまりかわらないということで、タクシーで登山口まで行くことにする。

金時山へのﾙｰﾄは乙女口・神社口・仙石口の３ﾙｰﾄある。今回は私がまだ登ってない仙石口からのぼることにする。ところが、なぜか着いた所は「神社口」でした。たまげたことに、境内にはいると雪。踏み固められてはいるものの３０～５０ｾﾝﾁは積もっていそう。アイゼンを履くのは２度目という人もいて、練習のいみもこめて早々にｱｲｾﾞﾝをつけて歩くことにする。仙石からの登路が合わさるまで樹林帯の中でずっと雪があった。尾根道にでてもところどころで雪が消えていたがアイゼンははずせず、頂上まで装着した。登山道では幾つかのグループと追いつ抜かれつであったが、頂上ではたくさんの人が昼食の最中で、座る場所を見つけるのに時間がかかった。頂上には、二軒の茶屋がある。富士山側に下がったところにあるのが、元祖金時娘の小宮山さんのいる茶屋で、この日も髪をお下げにした独特のスタイルで仕事をされていた。もう片方の小屋には金時山登頂〇〇回記念とかかれた手ぬぐいがいくつもかべに張り出されている。しかもその回数たるや３００回や５００回という数でおどろいてしまう。トイレもある。富士山や箱根の山々の展望が素晴らしく、いつもなら、「天下の秀峰金時山」と書かれた巨大な看板のまえで富士山をﾊﾞｯｸに写真が撮れるはずなのだが---。残念ながら、富士の姿を捜したが裾野がわ

ずかにみえているだけで、あとは厚いくもにおおわれていた。1日富士の姿を見たい人で、頂上は込み合っていたのだ。私たちも一目みたさにいつもより時間をかけて食事をとるが、雲厚く晴れそうになくおまけに少々寒いので、下山することにする。

下山路は乙女峠を下る。雪がついているので慎重に下る。急坂をくだるとやや登りになり、右に美しいブナ林が長尾山へとつづく尾根道を行く。長尾山頂は展望がよく芦ノ湖がみえた。途中何度も木々の間からでも富士が見えないかと立ちどまったり、振り返って見たりするが、ますます雲が厚くなったような気がする。「今日はもうダメだね」とあきらめていたところ,ナント乙女峠に着いたトタン「ワァー」と歓声があがり目の前に美しい富士が姿をあらわした。頂上から裾野まで姿をみせてくれたのだ。まるで私たちが乙女峠に到着するのを待っていたように。カンゲキカンゲキ。けれどもいつの間に前方に現われたのだろうか、まるでキツネにバカサレたみたいだ。早速、高橋芳恵さんのリードでテーマソング「富士山」の大合唱。嬉しくて三回くらい歌ったかな。

同じ下るなら富士を見ながらと、御殿場側のトンネル前に下る。乙女口の駐車場も雪はビッチリあった。バスを待つ時間も富士を眺める。時々雲がかかり見えなくなるが、しばらく待っているとまた姿を見せるのだ。

箱根・御殿場といえば温泉。ここまできて温泉に浸からない手はない。全裸を富士に見られるてるように気恥ずかしいくらい間近に富士山が見られる『乙女の湯』にて、つかれを癒す。残念ながら今日は雲のサングラスをかけておられました。アーゴクラクゴクラク。

やまなみ　小川誠二郎

富士は日本一の山

朝5時、家を出て空を見ると厚い雲の切れ目から月が輝いていた。しかしすぐに雲に隠れてしまった。きょうは富士山を拝みに行くのだから、お天道様、お願いしますと祈りながら我孫子駅まで25分歩いたが月は顔を出さなかった。雲は相当厚いようだ。きょうの山行は、岳人あびこ5周年記念の富士登山に備えての15回シリーズのひとつで、そのシリーズはいずれも富士山を見る趣旨で計画されているから、是非富士山を見て来たい。

新宿で小田急の急行に乗るとき、斎藤さんがよく心得ておられて、列車の最前部に乗り、小田原駅では降りるなりプラットフォームの先の方へ走って登山電車に乗車、即発車。妙なダイヤが長年続いていることだ。箱根湯元で降りてバス停に向かうと、タクシー運転手が何人も寄って来て、5人で乗ればバス代と同じとのこと。なるほど。10人だからちょうどいい。2台で登山口の公時神社入口に直行。なかなか能率的。準備運動などして登り始めるとたちまち雪道。しばらく行って道の脇でアイゼンを着用した。一週間前に荒船山でアイゼンを着用したばかりで、練習の機会に恵まれることよ。荒船山では交代でラッセルしなければならなかったが、きょうはきれいに道がつけられていて、それを辿るだけ。登り道は階段状になっていて、さくさくしているから、これは多分夏場より足元は楽なのではなかろうか。

先頭は斎藤さん。盛んに気を遣って抑えて抑

えてゆっくり登っておられることがよく判るが、それでもなかなか速い。10本爪の足跡を追うと、歩幅も大きい。性能のいい人は偉いものだといたく感心しながら懸命に後を追った。

雲は厚い。麓の芦ノ湖や雪を被ったゴルフ場は一面に灰色のムードながらきれいに見える。雨や雪が降る恐れはないが、富士山は絶望的。富士山を見るには色々の幸運が重ならなければ無理との話。早朝とか風のあるときでないととか、あのときはだめだったとか、あのときはよかったとか、休憩のときひとしきり。いずれにせよきょうは駄目みたい。

頂上手前で休憩して、そのあと一気に7分ほど登るとそこが金時小屋。50人ぐらいの先客が小屋の外のテーブルで食事している。我らも早速食事とする。高橋芳恵さんにしるこの小袋を頂きお湯で溶かして頂くとこれは美味。これからはこれを持って来ることにしよう。

外輪山はくっきり見えるのに、その上は雲が涌き上がっていて、富士山はとても無理。「金時山 1,213 メートル」の大きな標識の前で記念写真を撮って出発。下ったり登ったり、狭い道などあって足元を気遣いながら雪道を行く。乙女峠手前の広いところで被服調整。「少し脱ぎます」という女性に「少しと言わず全部脱いでもいいですよ」などと、是、世苦波羅ニ非ズヤ。そこから一息下って乙女峠の小屋に到着。と、おおっ。富士山が顔を出しているではないか。皆、崖の縁まで駆け寄る。

富士山の頂上とその両脇が、開き戸のように僅かに開いた雲の間からはっきりと顔を出している。皆で見惚れていると「隠れないうちに写真、写真」の声。カメラ係の中村さんが早速撮影。次々に降りて来る登山客が都度同様の歓声をあげて崖の縁に駆け寄る。「もう一歩前進すればもっと見えますよ」などと。隠れる心配とは逆に、富士山は次第に全容を現して来た。たちまちのうちに空も真っ青。高橋芳恵さんの発声で、全員で富士山の歌を歌う。15回シリーズで毎回必ず歌うことになっているとのこと。「♪頭を雲の上に出し　♪四方の山を見下ろして　♪雷様を下に聞く　♪富士は日本一の山」。本当に富士は日本一の山だ。麓まで雪を被って、柔らかい肌にゆるやかな襞がある。雲の陰が斜めに走って、これは横山大観もしばし筆を止めて見惚れるのではあるまいか。あー、きょうは来てよかったー。

下山にかかる。よかったねーを繰り返す。深い雪をきれいに掻き分けて道を作ってくれてあるのを下る。木々の間から富士山が見える。思いの外早く乙女峠の駐車場に着いた。アイゼンを外す。温泉センターに行くバスは出たばかり。次のバスまで半時間ほど待つ。ここからは富士山の全容の眺めをほしいまま。乙女峠を通過する車が次々停車して、写真を撮っては去って行く。新宿行きのバスに乗って温泉センターへ。温泉では湯船から一面のガラス越しに富士山が見える構造。実にオツなものだが、残念ながら、頂上に雲がかかってしまった。それでもいい。きょうは充分堪能させて頂いた。

バスで御殿場駅に出て、御殿場線で松田に出る。JR御殿場線は結構洒落たボックスシートの車両の二両連結。御殿場線は初めての人もいて、これはめっけもの。松田では階段を降りてトンネルを潜って改札口を通り外に出て、小田急に乗り換え。代々木上原経由我孫子まで御殿場か

ら３時間あまり電車に揺られて無事帰着。きょうはシリーズ15回のうちの３回目。全部に参加するという人もおられて脱帽。全部に参加とはいかないがなるべく多くの回数に参加して、富士登山に備えたい。

皆さん、いい富士山を見ることができてよかったですね。色々有難うございました。

[柔肌に薄雲を掛け雪の富士　誠二郎]

コース：概　　要

山　名	金時山（箱根）		
期　日	平成13年2月11日（日）曇り後晴		
山行形式	日帰り	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	A
目　的	そりゃナントいっても富士の展望でしょう。5周年記念山行シリーズ		
企　画	5周年記念	歩行時間	ﾈｯﾄ3時間20分
費　用	4,010円	地形図	関本、御殿場
ﾘｰﾀﾞｰ	細野清子	参加数	10名
日程コース 11日	我孫子駅発JR05:30=日暮里06:00=新宿06:30/小田急急行06:46=小田原08:15、登山電車発=箱根湯元 08:25/ﾀｸｼｰ２台08:36－公時神社入口 09:00/09:15～アイゼン装着 09:25/09:35～金時山頂上11:12/(昼食)記念撮影11:45出発11:50～乙女峠 12:40/12:49～乙女峠駐車場着13:10/13:46－温泉ｾﾝﾀｰ14:10/15:10（入浴）/バス発 15:50－御殿場駅16:08/16:13=新松田 16:55／小田急松田 17:05=代々木上原 18:15 千代田線18:28=我孫子駅帰着19:40		
ﾙｰﾄ状況	南峰直下の鎖場はななめに傾斜し足元が悪い。登り初めから、ここまで人と会わず。 鹿岳からの展望は妙義の岩山、荒船、雪の鼻曲、浅間隠、赤久縄山。 下高原の山村と人々はやさしさで満ちあふれていた。		

＜2月＞　＜4月（再挑戦）＞

御正体山

（1,681.4 m）

ﾘｰﾀﾞｰ安田みずほ

完敗に乾杯！？

道志山塊最高峰の御正体山を2月の半ば、5周年記念山行富士周辺を登るをテーマに計画したが私リーダーの未熟さゆえ途中引き返しという結果になってしまった。その原因は

① 例年にない大雪であった事。

② 計画の甘さ。登りルート計画の失敗。（ルートが4ケ所ある。）

③ 最初の登り口を間違えた事での時間のロス。

天気は良かった。タクシーの運転手さんの話では「1月末に降った大雪がかなり残っているが御正体山にも登っている人はいる。」細野からにするか、道坂トンネルからにするか迷っていたが「道坂からよく登られている」との話で道坂トンネルからに決定した。「行けるかな？」「大丈夫、行けますよ。」メンバーの励ましに安心して登りだしたが、第一歩の登り口を踏みあとをたどって行ってしまった。（ここはまっすぐ直登する目印がついていたのに見逃した。ここでのロスはかなりの時間の消耗だった。）

武藤、武内両氏のラッセルにて藪道の小枝をはらいながら、雪に足をとられないようにと、だが思うようには進まない。1228m峰当たりで山のかげから富士山が少し見える。青空にはえ真っ白だ。ここで写真を撮っておけばよかったと後で悔しがった。再挑戦に参加できなかった皆に・・・残念。原田和さんがズボ、ズボと雪に足を取られる。なぜ？

引き返すか進むか決断を・・・ああどうしよう！本当にどうして良いのかわからなくなって、「もう少し行ってみましょう」しかし皆もこの時点で無理かな？と思ったかどうか、あとひとつ山を越えれば御正体山はそこにある筈なのに、遠く重く感じた。「引き返しましょう！」そうです。山はピークハントだけが目的ではないはずです。行けば行けたかもしれないが。

下山の足取りは重く、疲労を感じ足が上がらない。都留市駅前でラーメンが実にうまかったのはなぜだろう。高橋潔さんの言葉を借りて完敗に乾杯！

やまなみ　山西澄子

雪と枝に はばまれて・・・

この日は、寒さは厳しいものの風もなく晴天という天候に恵まれた。道坂トンネルでタクシーを降り、各自スパッツ、アイゼンを着ける。私は雪の深さとメンバーの面々に相当びびっていた（おそらくこの深い雪山の未経験者は私だけなんじゃないかと）。

雪山は登山道を隠し、「さあーどこからでもどうぞ」といった風に見えた。赤いテープなどの標しが見つからず、どこをどう登っているのか？？？いきなりの胸をつくような急坂が続く。新雪に片足をとられ、笹や木の枝が顔を撫で、たたく。「私にかまわないで！」と叫びたくなるほ

ど、枝にはばまれた。見晴しのほとんどない尾根道のアップダウン。途中御正体山の陰に白い大きな富士山が三分の一？ほど見えた。あの御正体山に登ればあの大きな富士山が目の前に現れるのだと胸が躍るが、はやる気持と裏腹になかなか進めない。頂上が踏め事が出来るかどうか時間との勝負ではあったが、日の当る場所での昼食時に武藤さんの熱いコーヒーで元気をいただき、いけるところまで登りたいという皆の希望で一時半頃まで頑張る。山頂も見えているが、その先の状態を考え、やむなく引返すことになる。私が足を引張ったんじゃないだろうかとの思いが去来する。皆の気持を察してか、せっかく高い山に登ったんだからと、外崎さんが、あれが三つ峠で・・と説明して下さるが、足を引張る雪とちょっかいを出す枝に悩まされて、正直言ってどこをどう歩いたかほとんど記憶に無い。引返しの道の長く厳しかった事。タクシーに乗ったとたんに寝てしまった。でも夏に是非登ってみたい魅力ある山となった。

概要

日　時	平成13年2月17日（土）　晴れ		
目　的	5周年記念、道志山塊最高峰を登る		
費　用	約5000円（ホリデーパス使用）		
歩　行 時　間	5　時間 30分	グレ ード	B
参　加 者	L安田，ＳＬ武藤、細野清、細野省 外崎、斎藤、高橋英、武内、山西、原田 和、高橋潔　　計１１名		
コース 我孫子駅5：33千代田線＝西国分寺＝富士急都留市駅8：15（タクシー） 道坂トンネル 9：00～1228m峰 10：30～岩下の丸～昼食～引き返し 12：30～道坂トンネル 15：10（タクシー）－都留市駅＝大月＝高尾＝我孫子駅20：00			

再挑戦！　ﾘｰﾀﾞｰ安田みずほ

やはり素晴らしい
道志山塊最高峰

それから２ヶ月後の４月２２日有間山から変更して参加してくれた５人の仲間と共に、御正体山の再挑戦山行を行った。雪もやっと無くなり、ルートを細野集落の三輪神社側からに変更した。晴れてはいるものの富士山は拝めないかも？そんな不安が頭をよぎる。三輪神社からに変更したのは峰宮跡からの富士の眺めは絶景とのガイドブックの言葉を頼りにしていたからです。（前回は雪の為、急な道と凍っている可能性がありこのルートは敬遠した。）ほんとにすごい急登で、峰宮跡までずーと登りっぱなしで、あえぎあえぎ登る事２時間。鹿留林道との合流地点の峰宮跡は林に囲まれてひっそりとしてる。樹林の間から真っ白な富士山が見えたときはおもわず万歳！でした。ここから３０分足らずで御正体山山頂である。雪の多かったあの２月ころはこのルートでも来れただろうか？無理だったかもしれない。山頂は山梨森林100選に選ばれており芽吹きの木々が美しい。山頂は展望は無いが広くお昼にはゆっくりくつろげる。よい日和で、武内さん差入れのぜんざいが甘くて美味しい。大展望はないが右側に富士山を木の間から見ながらの山伏峠への下山。といってもしばらくは歩きやすい尾根を前の岳、中の岳、奥の岳と小山を越えていく。げんきんなもので、山伏峠への長い道のりも足取りが軽く、２月に引き返した時の足取りの重さが嘘のようであった。奥の岳辺りで例のごとく（富士山の歌を大きな声で歌いました。）山伏峠分岐からは急な坂道、下り道。小石がザラザラしていて危ない、危ない。呼んでおいたタクシーで平野バス停まで行きバスで富士吉田駅まで１時間半。駅ビルの中のお蕎麦屋さんで反省会。（今日は本当に良かった！良かった！）　２月の時、途中やむなく引き返しましたが５周年記念山行という事もあり再度計画、無事目的を果たせて皆さんのご協力に、感謝！ありがとうございました。今回行けなかった人も是非、再度御正体山に行ってくださいね。ピラミット的な美しい大きな山。御正体山は、やはり素晴らしい道志山塊最高峰にふさわしい山でした。

日　　時	平成13年4月22日（日）
目　　的	再挑戦山行（5周年、山頂に立つ）
費　　用	約5,200円（ホリデーパス使用）
歩行時間	5時間40分
参 加 者	L安田，SL武内、村松敏、中村隆、大串恵、大串秀　　計6名

コース

我孫子駅 4:53 千代田線＝八王子（松本行き）6：34＝富士急都留市駅 7：38（タクシー）－三輪神社 7：55～登山口 8：25～峰宮跡 10：20～御正体山山頂 10：45／11：25～前の岳～中の岳～山伏峠分岐 12：55～山伏トンネル 13：35（タクシー）－平野バス停―富士吉田駅（ホリデー快速）15：48＝立川＝西国分寺＝我孫子駅

＜３月＞

越　前　岳

(1,504 m)

ﾘｰﾀﾞｰ 武内勇二

１．はじめに

富士山のほぼ真南に南北に長く愛鷹連峰が連なるが、越前岳はその最北端にあり連峰の最高峰である。この山塊の生成は富士山よりも古く、標高も高かったそうである。

１月より始まった岳人あびこ５周年記念富士山とその周辺の山シリーズの第５弾山行兼新人歓迎山行のリーダーとして始めてこの山に登ることとなった。

正確に言えば、越前岳は今回が２回目である。１回目は今年の２月、偵察のため十里木高原からの往復でこの頂きを踏んでいる。その時はまだ雪が多く麓からずっとアイゼンを着けたまま登った。小雪のちらつく空模様で、展望はほとんどなかったので、今回こそは富士や伊豆半島・駿河湾の大パノラマをみたいと楽しみにしていた。

２．愛鷹登山口～黒岳～富士見台

前日昼過ぎからの雨がかすかに残ってはいたが天気は回復との予報に期待しながら登り始めた。３班に分け A 班のリーダーに清家さん、B 班を細野（清）さん、そして C 班を安田さんにお願いした。

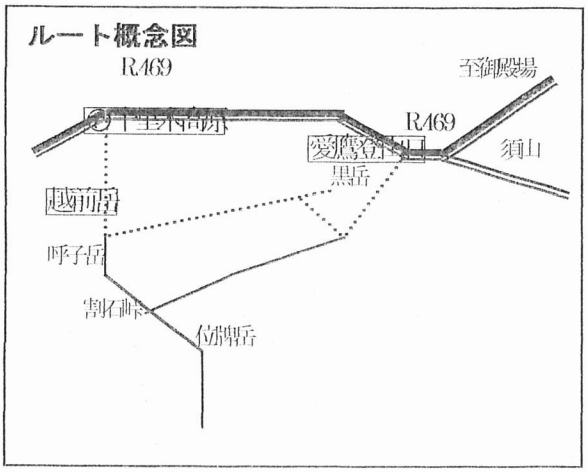
最初はうっそうとした杉林を行き、潅木の中の道を辿るとまもなく愛鷹山荘に着く。山荘の右を登るとすぐに黒岳・越前岳間の稜線に出た。小休止の後、黒岳に向う。富士の演習場からの射撃の音が聞こえる。使うことになったらそれこそ大変だが、現実には使うこともあるまいに訓練が本当に必要なのだろうかなどと思いながら歩む。黒岳（1,086m）の山頂は富士の格好の展望台とのことであるが、相変わらず雲に覆われて何も見えない。黒岳より往路をひき返し越前岳方面に向かう。最後尾の B 班と別れ約 10 分ほど先行する A 班、C 班を追走することとした。

残雪がみられるようになり、間もなくルートは雪の中を行く程になった。所々アイスバーンになっており、注意しながら先を急いだ。先行のパーティに追いつくのはかなりのスピードを必要とする。息がきれた。鋸岳展望台すぐ手前でようやく C 班を捉え、同展望台で休憩中の A 班にも会うことが出来た。昼食を富士見台と決め、A,C 両班は出発、約 15 分遅れでやってきた B 班と再び合流し富士見台に向った。

３．富士見台～越前岳～十里木高原

雲が少しずつ晴れ青空もみられるようになり、富士見台手前でついに待望の富士が雲の上に顔を出した。昨夜の山麓の雨は富士山頂付近では雪だったようで青空の下で真っ白に輝いている。しかし、雲の流れは早くまたまた富士はベールに包まれてしまった。

富士見台で A、B、C 全員で昼食の後、越前岳への最後の登りにかかった。アイゼンを着け、足元をかためた人もいた。なくても危ないと言うほどの事はないが、着けた方が安心できる。



越前岳頂上は雪が解け泥んこの状態だった。相変わらず雲が垂れ込み富士は想像するしかない。ここで会友の坪井さんの夫君の出迎えに会った。坪井さん本人はゆっくりと登ってくるはずとのこと。昨年の富士山でのアクシデントから回復、トレーニング開始とのことで何よりである。全員で記念撮影の後十里木高原への下山にかかった。

4．富士山がみえた！

潅木帯の中をほぼ一直線に下り、馬の背とよばれるあたりを過ぎると視界が開け富士の裾野に広がる雄大な景色が眼前に広がる。上空の雲が切れ青空が顔を出すまでになった。そして、ついに富士山がその全容を現した。午後の陽射しを浴び白い雪のベールをまとって聳え立つさまは何とも神々しい。「日本人は子供の時から富士の歌を歌い、富士の絵を描いて育つ。自分の土地の一番形のいい山を指して何々富士と名づける。最も美しいもの，最も気高いもの、最も神聖なものの普遍的な典型として、いつも挙げられるのは不二の高嶺であった。」（深田久弥日本百名山より）富士山は日本人の心のふるさとであり、いつまで見ていても見飽きることはない。

5．新人歓迎会

東屋の横にシートを敷き、４～５期合同の食担がケンチン汁を作ると準備完了。新人担当の細野（省）さんの発声で乾杯。坪井さんご夫妻からビールのさしいれまでいただきおかげで酒、おつまみたっぷり。ケンチン汁も具がたっぷり、味もよく好評だった。新人・旧会員の自己紹介で話しが弾み、細野（省）さんが誕生日とわかると皆でハッピイバースデイトゥユウを合唱して還暦をお祝いした。富士山を屏風に立てての豪華な新人歓迎会となり、山行リーダーとしてほっと胸をなでおろしつつ帰路についた。

やまなみ　高橋寿江

待って待って待ちわびて
あきらめかけたその時に
ドドーンとお出まし富士の山
新人歓迎山行

週間予報では雨、ああガッカリ。「体力は落ちているだろうし、最初から雨では辛いなあ」と去年の５月以来の山行に不安な気持ちになる。前日の予報は回復に向かうとのこと。ヤッター。当日は時おり明るくなるも朝から雨の中、バスは出発した。窓も曇って視界無し。予定より 30 分早く林道入り口に着く。武内リーダーの「大丈夫大丈夫、晴れる晴れる。」と自信にあふれた言葉に元気づけられ、きれいに枝打ちされたヒノキの植林帯を行く。神社入口の鳥居で衣服調

整をし、一息入れて登山道に入る。秋にはカサコソ音を立てた落ち葉も、弾力のある腐葉土と化し、靴底に気持ちがよい。雪の重みで折れた真新しい枝に今年の雪の多さを感じた。樹林帯の間から、雪の残る涸れた沢や苔むした岩、木の根や浮き石に注意し、無人の愛鷹山荘脇をひと登りすると、黒岳と越前岳を結ぶ尾根に出た。見晴らしはないが雪が片隅に残る小広い富士見峠で一休みして、足元のぬかる尾根道を黒岳に向かった。

黒岳山頂は一面雪で覆われて寒い。ベンチがあり、ゆっくり展望を楽しみたいところだが、本日視界ゼロ。「カシャ」写真だけ撮って早々に引き返し越前岳に向かった。

まもなく登山道は雪に変わる。北白ガレンの縁を一歩一歩慎重に登る。疲れと雪でたびたびバランスを崩し、こわい思いをしながらやっとの思いでついて行く。つらい、苦しい、もうヤダーとその時、足に違和感・・。トレーニングをして臨んだが、しばらくぶりの山行、雪のおまけもつき足元に神経を集中したせいか、足がつってしまった。細野さんからアイゼンを借り、「ザック」を軽くする為、荷物とアイゼンを恵子さんが持ってくれ先に行く。「なんとも不覚」。優しく力づける外崎さんにもお世話になり、B班の中村さん、追い抜き際に、ハイと魔法の回復薬（？）を手渡してくれた。皆の優しい気持ちと自分のふがいなさにウルルルー。「ザクザク」とアイゼンを着けた足は軽快に頑張り出し、一息登って富士見台の皆に追いついた。ここは五十銭紙幣の図案になった所との説明あり。だが本日視界ゼロ、紙幣を知らないので図案の富士山を想像する。

越前岳の山頂は、日が射し明るく見晴らしも良くベンチもある小広い場所だが、足元は雪解けでぐちゃぐちゃのドロンコで最悪だ。富士の展望は望めないが、芽吹きはじめた山々の緑はすがすがしく風もなく穏やかで、山頂は春の気配が全身に感じられた。

ズボッ、ツルーと埋まったり滑ったりするたびにあちこちで声があがる急坂を慎重に下る。木々の間から十里木高原が見え隠れすると、いつしか雪もなくなり、暖かい日差しの中、笹の広がるカヤトを下りる。なかなか姿を現さない富士に、写真担当の松本さん我慢できずに証拠写真と言ってシャッターを押す。展望台で遊ぶ子供達、所々野焼きされて黒々
まだら模様の草原、遊歩道の階段、下で手を振り迎えてくれる坪井さんの姿が目に入る。突然、「出た 出た 出た！」「何 何 何？」「富士 富士！」。富士山が出た。思わず見上げる目の前に、大きく広がる雄姿に、「ワァー、間に合った。写真写真。」と武内リーダーは慌ててシャッターを押す。あきらめていた富士山はやっとその全容を見せてくれました。広々とした十里木高原の東屋で、食担の五期生と手際の良い四期生のおいしいトン汁で、車座になったシートの上で坪井さんご夫妻も交えて、新人の歓迎会が開かれた。雨模様で心配したけれど富士山をバックに広い高原のおいしい空気の中、飲んだり食べたりの大宴会。雄大な富士の姿は疲れを忘れさせ、お腹も心も満腹にさせる日本一の山でした。

山行データ

山名	越前岳（愛鷹連峰）
日時	平成 13 年 3 月 18 日(日)　日帰り
目的	富士山・駿河湾展望 新人歓迎会
交通	貸切ﾊﾞｽ(往)我孫子駅北口～愛鷹登山口　(復)十里木高原～我孫子
行程	愛鷹登山口 8:30～愛鷹山荘～黒岳～富士見台(昼食)12/15/12:40～越前岳～十里木高原 14:50
参加	会員 27 名　（男 11 名、女 16 名） 現地参加　会友 1 名、他 1 名
費用	4,200 円（酒、おつまみ込み）

＜3月＞

菰釣山・高指山

(1,348m)　(1,741m)

ﾘｰﾀﾞｰ 柴 勇

いつかまた、残雪の頃に

道志の森キャンプ場からゆっくり歩き始める。キャンプ場は静まり返って人影はない。水筒に水を各自詰めて、ゆっくり歩き始める。今夜の夕食に花を添えようと、山菜取りを始める。しばらくすると、フキノトウが、3 個丁度よい大きさのものが見つかる。水晶橋を過ぎてから残雪があらわれる。今年は雪が沢山降ったのでもっと残雪が有るものと期待していたが少ない。それでも残雪が中地半端なために歩きにくい。一部片側が急斜面で細い道が崩れていたため、張ってあったロープを上手に利用して慎重にトラバースする。城ガ尾峠に着いたのは丁度昼食時なのと、暖かい日差しが差していたので、木製のテーブルに思い思いの弁当をひろげて、おしゃべりを楽しんだ。峠には残雪が無く、山にも春は駆け足で訪れていた。　避難小屋までは丹沢らしい縦走トレールが続いて、静かな山旅を楽しんだ。ところどころにブナの林が現れ、野鳥の声もする。人の声は無くまだ芽吹いていない冬枯れの木々を風が通り抜ける。小屋には早く着いたので、わずかに残っていた雪の中に持参した缶ビールを冷やして、その間コーヒーを淹れてしばしおしゃべりをする。

富士山の展望を期待して朝早く起きる。しかし、空には、星も無く、低い雲が恨めしい。菰釣山の山頂からは、富士の裾野だけがわずかに確認できただけ。いつかまた、2 月か3月の上旬、残雪の頃にきて見たい。

やまなみ　武藤邦芳

静かな「東海自然歩道」

一日目　泊りの山行の初日は辛い。大抵寝不足で登りはじめる羽目になる。今回は珍しく早めに仕事を切り上げたものの、初めて購入した数値地図に時間をとられてしまい、結局いつもと変わらない。幸い今回は初日は楽な設定である。

御正体山への登山口を二つ右手に見送って、タクシーで「道志の森キャンプ場」に着いた。我孫子を出てほぼ四時間かかっている。道端で蕗の薹を調達しながら歩き始めるともう時計は10時をまわっていた。雪がまだかなり残っている道を沢沿いにつめていく。尾根が近づく頃、トラバースしながら谷をまく、ロープのある箇所に出る。一人ずつ慎重に通過していく。昼前には城ヶ尾峠に着く。ここからは東から延びてきた「東海自然歩道」になり、整備された道が続く。昼食を採って再び歩き出す。ほぼ東西に延びる尾根は、ブナを含めた広葉樹林が気持ちよい。北の斜面の残雪と、木とその周りから顔を出し始めた地面が、白地に黒の水玉の美しいコントラストを描き出している。右手には御正体がどっしりと聳えている。一ヶ月前に、雪に登頂を阻まれ山である。その時のリーダー

安田さんに「今から（富士山の）写真撮ってきたら」の声が掛かる。　上り下りを何度か繰り返し、もっそりとした菰釣山が現れた。まもなく笹藪のなかに避難小屋が見えてきた。まだ13時30分だ。残雪で冷やしたビールで乾杯、ここからお茶、夕飯を挟んで締めの”シェルパティー”迄、楽しい宴が続く。我々の他は単独行の青年一人であった。

二日目

5時40分、ウグイスの声を聞きながら歩き始める。予報では天候は下り坂。長い行程と雨への恐れ、微かに残る富士展望の期待を胸に、出だしの登り坂からピッチがあがる。30分ほどで菰釣の山頂に着くが、やはり富士は雲の中である。昨日に引き続き東海自然歩道を西に辿っていく。途中、小屋の同宿者に抜かれたが、静かな道が続く。しかし道が高圧線をくぐり、バイクの爆音が耳につきだしてくる頃になると、目的意識が低下したのか、メンバーの間に倦怠感が漂い始めた。皆かなり余裕があったが、リーダーの判断で高指山で下山する事に。平野のバス停が近づく頃、雨が降り始めた。

概 要

日時　：2001年3月24日（土）～25日（日）
参加者：柴（L）,村松敏、斉藤（SL）,清家（食担）、外崎（カメラ）、安田（会計）武藤（やまなみ）、青山（やまたん）
コース：一日目　　晴れ
我孫子 5:30～新宿 6:25/6:44～高尾 7:32/7:43～都留市 8:50/9:00
（タクシー）～道志の森キャンプ場…城ガ尾峠 11:17/12:00（昼食）…菰釣避難小屋 13:25（泊まり）
二日目　　曇りのち雨
菰釣避難小屋 4:00/5:40…菰釣山 6:03…油沢の頭 6:50/7:00…樅の木の頭 7:15…西沢の頭 7:31…石保土山 7:54…大棚ノ頭 8:24…
高指山 9:15/9:30…切通峠 9:40…平野バス停 10:24～富士吉田

＜４月＞

沼津アルプス

（392m：鷲津山）

ﾘｰﾀﾞｰ村松峰子

山椒は小粒でぴりりと辛い

五山七峠からなる沼津アルプス。一番高い山でも392m。低山だからと考えていた人には、ロープにすがる急登、急降下が多くびっくりしたことでしょう。「滑落注意！」の立札まで。「山椒は小粒でぴりりと辛い。」と云った山でしょうか。眼下に穏やかな駿河湾、雄大な富士の裾野、ふりかえれば伊豆の山々と眺めは一級品です。桜の時期、始終眼下に大海原を見ながら歩くという大変爽快な一日でした。

メモ：高橋　芳恵

- 桜のもっとも美しい中、思う存分満喫した山旅だった。
- 多比の町全体からひものの香りが漂い、下山したら美味しい魚を食べようと大いに期待した。
- 大平山のピストンでは足下が滑りやすく低山ながら半端じゃない山であることを確認。
- 「えっ、あの山の上るの！」と言うほどの鷲津山からはロープと鎖にしっかりつかまって全く余裕なし。靴底に泥が重く付き、三つ峠・黒岳からの下りを彷彿させた。以後八重坂峠までロープは続いた。
- 山行中の駿河湾の眺めはすばらしく、「春の海　ひねもすのたりのたりかな」の一句につきた。足下にはスミレの花がとぎれず楽しませてくれた。
- 朝の車中よりすばらしい富士山をながめたが、途中雲に隠れ徳倉山のあたりからすこしずつお出ましになった。もちろん、テーマソングを合唱。
- ようやく到着した黒瀬のバス停よりまだ歩き足りない先輩諸氏の先導にて沼津駅まで歩きに歩いた。残念ながら期待した魚はにおいだけとなった。帰路、今日登った山々の山型を確かめ、改めて手強い低山であったことを心に刻んだ。

やまなみ　菊池純江

大合唱に富士山が・・・

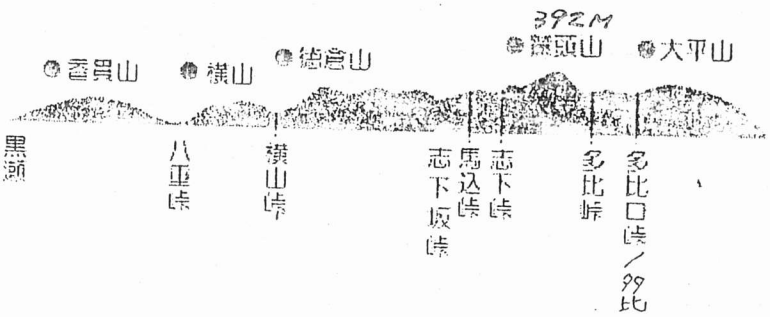
まだ眠っている町に靴音をたてて、一寸不安げに、しかし颯爽と歩きだした私。実は登山靴を履くのは１年３ヶ月振りです。今日は富士山のお膝元、地元の歩く会が名付けたという沼津アルプスに登る予定です。東海道線鴨宮付近で青空に聳える富士山を仰ぎ、心は早くも躍りだしています。多比バス停で下車、前に海、後ろに山の海抜０メートルからの出発です。潮の香りをいっぱいに吸いながら、皆で準備体操を済ませ、参加者１９名を二班に分け、いざ出発！思った以上に急登だ。でも両側に咲くスミレやシャガ、木々の緑が実に新鮮でその中を歩けるのが嬉しかった。「春の雪はすぐ溶ける。」と言うのに、日陰には昨日降った雪がまだ残っていて温かい日差しなのに吐く息は白かった。多比口峠からは狭い尾根の急登だ。歩き始めて一時

間、やっとの思いで大平山に到着。山頂には山桜が数本あり三分咲きだった。私は目を見張った。枯れた幹の間から小枝が伸び、若葉と蕾をしっかり着けていた。嬉しかった。勇気をもらって、さあ次の山へ。下山は慎重に、滑りやすい足場は足の裏全体を付けてズン、ズン、ズン・・・と下りた、下りた、下りた。二つ目のピーク鷲頭山は４００メートル足らずの小さな山だが、目の前にするとなかなか手強い山だ。力を振り絞って登る。山頂は３６０度の大展望、その上満開の山桜だ。皆で記念写真を撮り、待望のお弁当だ。山桜の下で食べ、おいしかった。下山は岩や木の根混じりの急坂だ。足元はぬかっていて靴底には泥が付いて重たい。ロープや鎖を頼りに慎重に慎重に下りる。急坂も過ぎ、ホッとして後ろを振り返ると、大きな千金岩、その後ろに大鷲頭、小鷲頭が見えた。山のあちこちで緑の中に白く浮き上がった桜がとても優しく思えた。今までの疲れもフッ飛んでしまった。しばらく行くとススキの尾根に出た。皆で富士山の大合唱をする。それに応えてか、今まで隠れていた富士山が一寸顔を出してくれた。嬉しさ百倍、元気を出してもう一息だ。急登の箇所には竹の柵が設置されていて有り難かった。

やっと三つ目の徳倉山に着いた。山頂は広くて明るい草原になっていて、正面に富士山、手前に駿河湾や宝永山。後ろに南アルプスを従え、箱根連山迄見渡せる。実に爽快だ。満足したところで又歩いた。アルイタ、あるいた。アップダウンは八重坂峠迄続いた。香貫山は桜の名所、ゆっくりと満開の桜と輝く海を満喫後は、皆気持ちよく下山。ようやく到着した黒瀬のバス停・・・、なのに又川沿いに駅まで歩いた。川を渡る風が心持ち良かった。休憩も含めて７時間強、ぬかるみの中、皆良く歩いた。沼津アルプスは低山ながらアップダウンの多い、訓練には打って付けの山だ。足元は厳しく、目には嬉しい素晴らしい山だった。無事山行ができたことを感謝しつつ帰路に着いた。

概　要

山行形式　日帰り
期　日　平成13年4月1日（日）
山　域　東海
目　的　富士山、伊豆箱根、駿河湾を眺めながらのミニ縦走
参加数　19名
コース
我孫子駅(5:30)⇒沼津駅(8:44)⇒バス⇒多比(9:20)～多比口峠～大平山～多比口峠～鷲津山（昼食 11:20/11:50）～志下山～徳倉山～横山～八重坂峠～香貫山～黒瀬～沼津駅（16:35/17:06）⇒我孫子駅(20:30)



沼津アルプスの山々

＜4月＞

蛾ヶ岳・三方分山

(1,279 m)　　(1,432m)

ﾘｰﾀﾞｰ村松敏彦

やまなみ　小黒和枝

富士山、南アルプス、八ヶ岳と秩父の山々、値千金の大パノラマ

”夕方より雨”の天気予報を気にしながら車窓より眺める甲府盆地は桃とスモモの真っ盛り。身延線は無人駅が多く最後尾のドアだけが開いて、車掌さんにお金を払って下りる。

登山口よりいきなりの急登。ＳＬの北川さんのペースに合わせ全員快調な足取り。”そろそろ昼飯にしよう”の声を聞いた途端に空腹に気がつき足許がふらつく。昼食後”稜線に出れば緩い登りになるよ”の言葉を頼りに花粉症に悩まされながら檜の林の中、急坂を登っていく。稜線に出ても急登は続くが木々の間から望む南アルプスにはげまされもう一息。烽火台へは６０度近い傾斜の木製階段を手摺につかまり這い上がるように到着。見晴らし小屋は、初代、二代目ともに残骸の柱数本あるのみ。100M下ったところに四阿が建っているが見晴らしは全く無い。四阿を過ぎて５分ほどなだらかな道を行くと眼下に四尾連湖が見える。文学碑公園の入り口より近道を一気に下ると水明荘。ロッジにザックを下ろし、四尾連湖を一週。湖の伝説？を聞きながらソメイヨシノの満開の下、キムチ鍋で乾杯！

二日目は４：30 起床。豪華な朝御飯を慌ただしく食べ、お化粧もそこそこに日焼けと皮膚ガンを気にしながら出発。息を切らせてひたすら登り続けること１時間余り、蛾ヶ岳頂上に着く。南に富士山、西に南アルプスが壁のように連なり、北には八ヶ岳と秩父の山々と、値千金の大パノラマ。急な下りを過ぎるとブナやミズナラの林が続く・・・。大平山は迂回する予定だったが登り口に立て札”日本一の富士の展望”と書いてある。「これでは登らなければ。」と、リーダー以下勇んで頂上へ。こちらも立て札に偽り無く三国一の富士の眺め。ゆっくりと休憩後同じ道を下る。”比較的平坦な道”（実はかなりきつい登り下り）を大栂の木を見上げたりしながら昨日と同様のハイペースで歩く。舗装された林道を 400Mほどたどった後山道を少し行ったところに無人の造林小屋があった。横に水栓が有りおいしい水が出る。全員喉を潤し、水筒に補給する。この後この二日間の行程中最も厳しい登りが約１時間、三方分山の頂上に立つ。富士山はぐっと近づき五合目の除雪作業の様子まで見えるほど。足下には本栖湖と精進湖の青い水が眩しく光る。下り始めの その名も”女難坂”で女難（？）に遭った人約一名。足首を捻挫した様子。以後ゆっくりのペースで精進湖まで。バスの時間が合わないため河口湖までタクシーに乗る。河口湖でも桜が満開でした。

二日間お天気に恵まれて、滅多に行くことの出来ない山を歩けるのも、この 岳人あびこに入っていればこそと、つくづく思いました。

山道の傍らにはイカリソウが控え目に咲き、カタクリもお花はこれからというように葉だけのぞかせ、ブナの新芽も小さく点のようで山梨の花はこれから・・・。

やまなみ　加藤秀明

今回は、会の５周年記念山行（富士周辺の山）シリーズとして、御坂山塊の美しい自然に触れることを目的としている。岳人あびこでも、ほとんど足を踏み入れたことがない山域である。実に楽しみだ。

●この山行のハイライトは次の通り。

・勝沼付近の車窓から見えるピンクの桃の花（まさに桃源郷の世界）と南アルプスの大パノラマはすばらしい。

・蛾ヶ岳、太平山、三方分山から見える富士山は、雲一つなく絶景
（さすがに、富士山の裾野はすばらしい、何とも言えない形をしている。）
さらに、南アルプス、八ヶ岳もばっちりパノラマの世界

●食事
１日目：昼－各自、夜－キムチ鍋
２日目：朝－餅鍋、パン（ハム、チーズ）、レタスサラダ、昼－各自

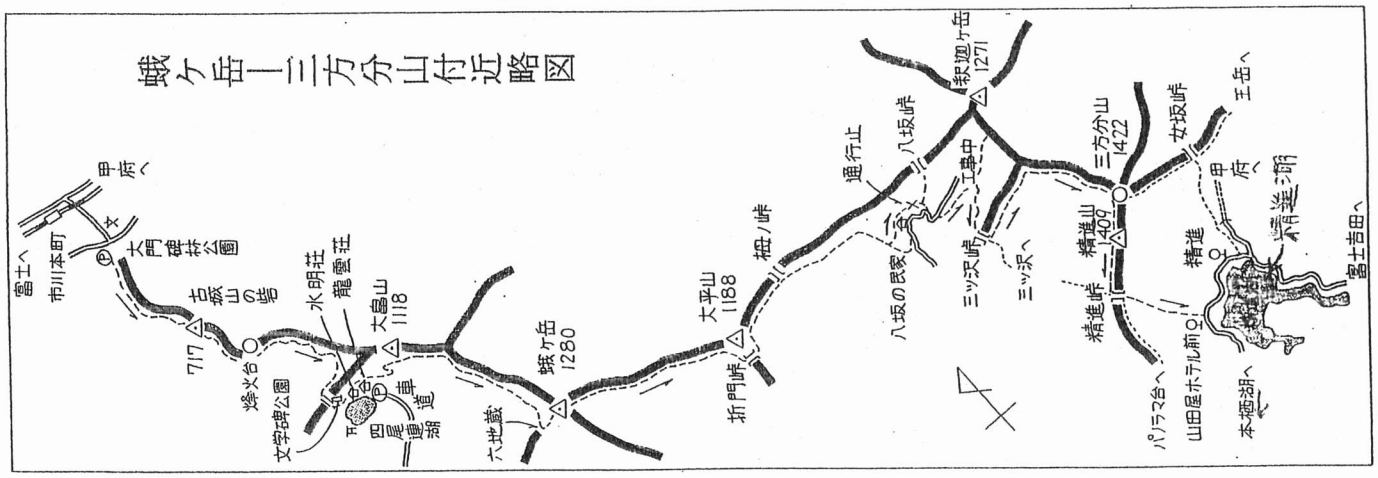
１日目は、市川本町（身延線）から約３時間の行動で四尾連湖までの行程である。新宿駅始発の電車だが、早めに（３０分以上前に）行かないと席が取れないかも知れないので注意が必要だ。中央線で甲府に向かう。勝沼ぶどう郷、塩山付近では、南アルプスのパノラマが見渡せた。北岳、鳳凰三山、間の岳などが見える。
さらに、麓のほうでは桃のピンクの花のじゅうたんが見事である。
南アルプスの大パノラマと桃の花のじゅうたんの組み合わせは絶景そのものであった。
甲府で、身延線へ乗り換える。身延線はワンマン運転の車両で、定期券精算の場合は注意しないといけない。（定期券精算の方々は、都区内精算で統一したため得をしたかも）
身延線・市川本町駅で下りる。朝から天気が絶好調のため、早くも半袖になり出発だ。甲府側へ戻り、宝寿院入り口を過ぎてから、右折して踏み切りを渡る。石段を上がり真っ直ぐ進み、市川中学校の前を通る。道路を横断した左側に大門碑林公園がある。大門碑林公園は入場有料の公園らしい。（入場料を払ってまでも入る価値のある公園には見えないが。）公園を横目に通り過ぎ、うす暗い樹林の中を登る。四尾蓮湖まで６キロとあり、この後１キロ毎に道標が現れる。しばらく登ると古城山の砦への道標があり、４等三角点の標石が埋没されている。２０分ほどで烽火台の下へ着く。烽火台には烽火を打ち上げる筒が修復されて立っている。戦国時代、遠隔の地に知らせるために打ち上げられた烽火は、今の花火の始まりである。掲示板によると、武田信玄の時に、駿河から府中の城（信玄の甲府の城）への最終の烽火台と記されている。
展望台からは、笛吹川を見下ろし、八ヶ岳・金峰山・北岳などの眺めがすばらしい。
烽火台のある付近は、やぶで荒れており、展望台も崩れている。何とか集合写真は撮った。下って巻道に出たところに、あずま屋がある。（こんな所にしっかりしたあずま屋があるのなら、ここで休めばよかった。）この辺りから傾斜も緩やかになり、橋を渡れば道幅も広く平坦になる。しばらく行くと文学碑公園の広場に出る。村松さんの高校の大先輩が高村光太郎へ綴った詩の碑がある。文学碑公園では、大畠山への尾根道と分かれ、下ってすぐ右の水明荘への近道に入る。
さっそく、四尾蓮湖の見える湖畔でビールで乾杯。梵天丸の悲劇の話に花が咲いた。
四尾蓮湖は静かな湖で、デートには最適かも知れない。一周したところ、大きながまカエルとそのたまごが渦になってウヨウヨあった。
１日目の宿であるロッジに戻って、改めて酒盛りの開始。持ち寄った酒とつまみで夕

食までまたまた盛り上がった。夕食は５時から、作り始めた。キムチ鍋でおなかも気持ちも暖まった。

２日目は４：３０起床。長丁場だ。（約７時間の行程）。
蛾ヶ岳の登り口は、駐車場の先にある。稜線の登りは急である。稜線を左に行けば大畠山の２等三角点の標石がある。蛾ヶ岳は右へ山腹を巻ながら平坦な道を行く。六地蔵がある所からは直登となる。四尾蓮湖から蛾ヶ岳までは子どもでも比較的簡単に来れるかも知れない。山頂はあまり広くはないが、四尾蓮湖が見え、均等のとれた雄大な富士山に会える。南に富士山、西に南アルプスが壁のように連なり、北には八ヶ岳と秩父の山々と、価千金の大パノラマであった。
山頂から東へ、すぐ急な下りになるが、わずかで再び平坦な道になる。水場への案内板や、鴨の猟場の標示板のあるところにはベンチもあって一区切りとなる。
太平山が前方に近づいてくるがここも巻ながら進むと、折門峠の直前に登り口がある。５分ほどで３等三角点の標石がある山頂が踏め、日本一の立て札がある富士山が眺められる。自称日本一だろうとタカをくくっていたが、松の木が適当に視野に入って、これまた大きい、優雅な富士山が見られる。
折門峠では道標を見て左へ曲がる。途中で左へ下る踏み跡を見送り、尾根上を行くと栂ノ峠である。栂の大木の根元には、小さな六角の石に彫られた地蔵が置かれている。富士山の方向も遮るものはない。
この先は、尾根上を通らず、山腹のやや下り気味の平坦な道を行く。下には林道が見える広く伐採された端で道が分かれる。下の道は八坂の集落へ、上の道は八坂峠へと続く。
上の道を行く。下に民家の屋根が見えてくると、通行止めの道標がある。林道工事で登山道が削られたためで、道標に従って民家の前を通り林道へおりる。右へ行きヘアピン状にカーブするところで旧登山道に出会う。八坂峠への登り口でもある。更に少し先で左へカーブする地点の二つ目のカーブミラーの背後に道は続いている。入り口が分かれば、また平坦な道が続く。
釈迦ヶ岳への分岐（無人の造林小屋があった）には水道の蛇口がある。これがまたとないおいしい水だった。沸き水であろうか、出っ放しになっている。釈迦ヶ岳への道は避けて、右へ三ツ沢峠へと向かう。
すぐ溝状のところをまたぐと、また上へ登る踏み跡があるが、山腹の平坦な巻き道を行く。八坂のミズナラの大木の前を通れば、三ツ沢峠に登り着く。
峠から三ツ沢の民家までは２０分ほどでくだれる。
三方分山へは最初は緩やかな登りも、後半は苦しい登りとなり（地図で見るとそれほどでもないと思っていたが、急坂５０分の通りでほんとうに急坂だった。）、稜線に出ればまた緩やかになって山頂に達する。切り開かれた木の間から富士山が大きく見える。
ここで昼食をとったが、ゆっくりする間もなく団体さんが来たので、早々に出発した。
精進湖へは女坂峠と精進峠経由との道がある。道標によると女坂峠が４キロ、精進峠が３キロとある。我が隊は、女坂峠のコースを取った。女と坂の間に「難」の字がある記載もあり、この坂は“女難だ”などと冗談を言っていたが、そうこうして急な坂を下りているところで、原田さんが足を滑らせてしまった。（結果的には、骨折となった。）
頂上で昼食を食べた後１時間以内に事故が多いという統計に当てはまった事例となった。終点まであと１時間位のところというのが幸いであった。精進というバス停まで下って、河口湖からタクシーを呼んだ。（バスは、１時半から４時まで無い。）
この日は、丁度天気が良かったため、帰りの道（バス道）は渋滞で動かないらしい。タクシーは、渋滞していない道を選んで（西湖回りで）河口湖駅に着けてくれた。タクシーの運転手推薦のそば屋で、下山を祝して乾杯して全行程を終了した。

日時：平成１３年４月１４日（土）～４月１５日（日）
グレード：Ｂ
目的：奥深い御坂山塊の美しい自然に触れる
山名：蛾ケ岳、三方分山
山行形式：ロッジ泊まり（四尾連湖－水明荘）
山域：御坂山塊
地形図：市川大門、精進（1:25,000）
歩行時間：１日目　２時間５０分、２日目　７時間５０分（休憩含む）
参加者：村松（敏）、北川、斉藤、清家、外崎、村松（峰）、大串（秀）、
　　大串（恵）、小黒、武内、原田（和）、加藤
リーダー：村松
食料　　：大串（恵）
カメラ　：小黒
装備　　：武内、原田（和）
会計　　：小黒（概算　約１１千円）
コース：１日目
　　我孫子　　６：３０　→　新宿８：１０（ＪＲホリデー快速）
　　→甲府　１０：４１　→（見延線）市川本町　１１：１５
　　→登山口１１：２５　→　４等３角点　→　烽火台　１３：１５
　　→文学碑公園１４：００　→　四尾連湖水明荘　１４：１５

　　２日目
　　四尾連湖　５：４５　→　大畑山　６：２０→　蛾ケ岳７：００→
　　大平山　　８：１０　→　三方分山１１：１５→　精進山　→
　　精進湖バス停１３：３５　→　河口湖１３：４５



＜5月＞

長者ヶ岳～天子ヶ岳

(1,336 m)　　(1,330m)

ﾘｰﾀﾞｰ高橋英雄

大沢崩れ に感激・・・

風薫る5月20（日）は富士山行5周年記念山行シリーズとして長者ヶ岳、天子ヶ岳の二山の山行でした。当初の計画は電車を予定していましたが、参加人数が多くなったのでバスにしました。

この日は天気に恵まれよい山行であった。特に長者ヶ岳山頂から見た 富士山・大沢崩れ は小生にとって感激・・・・。また、富士山全体のバランスがよく、雄大でした。

次は天子ヶ岳。思いもよらないシロヤシオの花道に一行は感激でした。天子ヶ岳では山頂の標識を移動させて記念写真を撮ったのには大笑いでした。

やまなみ　高橋芳恵

素晴しい富士の景観に「ばんざーい！」

5月20日　5時20分我孫子駅北口集合。成田線組は大丈夫かな？と思いきや、到着したバスの窓からニコニコと皆さんの笑顔・・・・。さすがリーダーのぬかりないお心配りに敬服。一路東名富士をめざして「しゅっぱーつ」。

天気は快晴。5月にしては珍しく、雲一つまとわず現れた美貌の富士の姿にうっとり。車中にて全員で三三七拍子を打って返礼し、富士山にエールを送った。バスは快調に走り、富士インターチェンジより西富士道路を通り、田貫湖には予定より早く到着した。近くにオープンした休暇村富士は、富士山を正面に田貫湖を足下に臨む絶好のロケーションで、是非一度泊ってみたいおすすめの宿であることを確認した。登山口より、東海自然歩道として良く整備された道が続き、杉や檜の植林地をどんどん登っていく。振向けば富士の姿はさらに大きく美しく、言うことなし。木々の間にシロヤシオの白い花を見つけ、皆で感激し首が痛くなるまで上を見続けた。シロヤシオの花はこの後もずっと山道を彩ってくれた。後で伺ったところ、リーダーは花の一番見頃であることを予測して計画を立てられたとか、周到さにまたしても感服。

長者ヶ岳の山頂は、大沢崩れの顔を見せる富士山や朝霧高原が一望でき、南アルプスの白い頂をも望むことができた。そこでいつものテーマソング、そして「ばんざーい！」。
居合せた登山者の方々も一緒に「ばんざーい！」「少しうるさくてごめんなさい。」でも素直な感

動の表現なのです。

天子ヶ岳へは南に稜線をくだり、上佐野分岐で東海自然歩道と別れ、直進する。シロヤシヲはさらに白さを増し、20分ほどで頂上の広場に到着。30分の昼食休憩の後はひたすら急坂道をくだり続けた。緩やかなカヤトの尾根に出ると展望も開け、正面には富士の端麗さをこれでもかと言うほど眺めた。全行程を通して歩きやすく楽しみの多い山で、山行の醍醐味を充分味わうことができた。林道の先の集落ものどかなもので、毎日富士山を眺めて暮すのも良いなと思ってみたりもした。立石のバス停前に折良く酒屋があり、ドリンク類を買って車中に・・。後は愉しく、旅は道づれ、酒は友づれ。貸切りバスは白糸の滝もすっ飛ばして、一路我孫子に。我孫子には6時30分に到着し、無理なく無駄のない行程で充実した素晴しき日曜日を過すことができた。

概　要

山行形式　日帰り（バス利用）
期　日　平成13年5月20日（日）晴れ
山　域　天子山塊
目　的　富士山の展望
参加数　16名
コース
新木⇒我孫子駅(5:25)⇒富士IC⇒田貫湖登山口（8:40/9:00)～長者ヶ岳（10:45/11:00）～天子ヶ岳（11:40）～林道～立石（14:02/14:20）⇒白糸の滝⇒我孫子駅(18:30)

＜６月＞

毛無山・十二ヶ岳

(1,500 m)　(1,683 m)

ﾘｰﾀﾞｰ 大串秀雄

母と見た富士

１月１日

新世紀元旦を母の病室で迎えた。

朝食後、車椅子を押して病室を出た。看護婦さんたちに新年の挨拶をしながら、いつもの散歩に出掛けた。

エレベータで最上階の１０階へ昇った。そこの大きな窓からは、新世紀の初日に輝く富士山が、幕張メッセのビル群の上に、純白の姿で輝いていた。

「ほら、富士山が真っ白だよ、きれいだよ」

「どこ？」

「ほら、あのビルの向うに真っ白に輝いているよ」

「…」

「見える？」

「うん、見えるよ」

本当に見えたのかどうか、一言「見えるよ」と言った声が今も耳に残る。

二十世紀末は、母と二人で過ごした。数日前までは元気よく話をしていた母は、すっかり元気がなくなり、一言二言、話をするだけで後は眠っていた。あれだけ楽しみにしていた正月の仮退院も、自分では無理だと言い出すようになっていた。ナースステーションの灯が差し込む薄明かりの病室で、イヤホーンから流れる音楽を静かに聴きながら新世紀を迎えた。

富士山を見てから病室に戻った。妹一家が来ていた。孫娘たちから一緒に家に帰ろうと言われた途端、急に顔が紅潮し、「帰りたい」と言い出した。真っ白な富士山や真っ青な空、新春の日差しに輝く街並みを見て、急に病室の外に出たいと思うようになったのだろう。

あわてて看護婦さんに相談したところ、仮退院をすすめられた。容態の急変に備えて酸素ボンベを借り、帰宅。結果として、これが文字どおり最後の帰宅になった。

３月２４日

足慣らしを兼ねて、妻と下見に出かけた。毛無山だけでは３時間コースであるため、折角、河口湖界隈まで長時間をかけて行くのであれば、十二ヶ岳へも足を伸ばしたいと思った。

河口湖駅では、未だ薄曇に隠れていた富士山。しかし、毛無山山頂では全景を一望でき、その雄姿に圧倒された。広い裾野には早春の霞がうっすらとたなびき、その上には、白雪の眩しい端正な山容が青空にくっきりと映えていた。

十二ヶ岳までの稜線はロープや鎖場の岩稜帯が続く。大岩の陰や北斜面をトラバースする個所にはかなりの雪が残っていた。ロープや鎖は、雪に埋まっていたり、氷結していたところもあった。景色を楽しむ余裕を完全に失うほどの険路だった。「気をつけるんだよ」。心配性の母の声が聞こえてくるようだ。十二ヶ岳からキレットへ急下降、残雪の急登を登り切り、漸く十二ヶ岳に辿り着いた。下山路も、急坂には雪はなかったものの、ぬかるみが滑り大苦戦。下山口の温泉に入ってやっと安堵。暫く山行を休んでいたためか、悪路のためか、かなり疲れた。

５月２日
天気予報では、特に山梨県下に大雨予報が出ていた。残念ながら、明３日の定例山行は険路を勘案し、中止を余儀なくされた。参加を予定された１９名の方々には申し訳ない結果になってしまった。

５月２３日
５月運営委員会の席上、日程が立込んでいることを理由に、再計画を秋まで延期したい旨提案した。しかし、５周年記念行事山行であることから、富士集中登山までに平日山行を含め再実施すべきとの方向で固まった。

５月２４日
５周年委員会で日程調整をしていただいた結果、山行計画のない６月２日に決定した。僅か１週間後のことでもあり、手分けをして、全会員あてに電話網で緊急連絡することになった。
誠に急な再計画にもかかわらず、１４名の参加をいただいた一方、当初計画時の参加希望者のうち再計画には参加できなかった７名の方々にはご迷惑をかけてしまった。

６月２日
再計画の山行は好運の連続だった。往路の電車の乗り継ぎが順調だった（特に、西国分寺の乗り継ぎが上手くいった）ため、計画より４０分早く河口湖駅に到着した。また、バスにかえてタクシーを利用したため、更に２０分短縮、あわせて１時間早く登山口に着いた。帰路でも、いずみの湯から河口湖駅までタクシーを予約しようとしたところ、送迎バスの利用を勧められ、半額程度を節約できた。
しかし、最も好運だったのは天候に恵まれたことだった。目の前には、雄大な富士山が常にあった。初夏の日差しで８合目辺りまで雪解けがすすみ、夏服に衣更えしつつあった。
稜線には心地よい涼風が吹いていた。満開のアカヤシオが強い日差しに映え、一段と華やかに咲き誇っていた。花好きの母の笑顔がふと浮かんだ。

あまりに富士山が素晴らしいことから、恒例行事は、毛無山と十二ヶ岳で２回も行った。「…富士は日本一の山」。大きな声で歌い、万歳三唱を終えた時の清々しさよ。
岩稜帯のやせた尾根は、急登急下降が連続し、ロープ鎖場が十数カ所もある険路。さらに、十二ヶ岳からの下山路も随所に急下降の難路。悪路にもかかわらず、リーダー部長以下ベテランによるアドヴァイス、全員の日頃の鍛錬と注意力がものをいい、無事、何事もなく下山口の温泉センターに到着できた。
温泉では、ゆっくりとたっぷりと反省会。五不思議(やまたん参照)を話題に、帰途へ就いた。

あとがき
入院して一ヶ月近く経った某月某日、昼寝から目覚めた母が、
「おまえも薄くなったね」
「そりゃそうだよ、還暦も過ぎたしね」
「お父さんはもっとあったよ、うちには薄い人はいないんだよ」
「じゃあ、俺は貰いっ子かな」
「私のお腹を痛めた子だよ、安心をし（笑顔）」

その母も、春を待たずに、富士山の遥か遥か彼方の父の許へ逝ってしまった。

それにしても、「何で私が毛無山」。他に適任の人がいるような気がして…、いまだに何となく腑に落ちない。釈然としない…。

やまなみ　小黒和枝

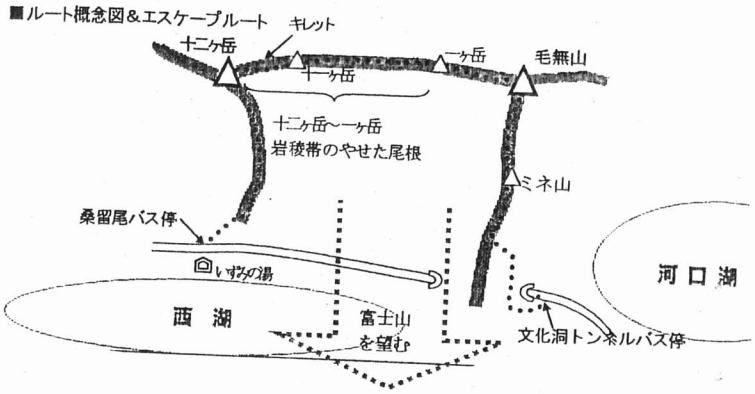
あっという間の十二が岳

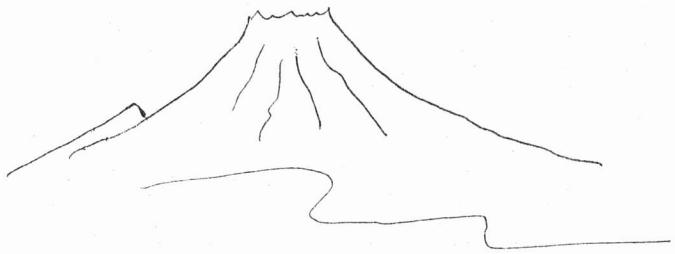
毛のある人も・・の呼びかけに応じて参加申込みをしたのは1ヶ月前。天候悪化のため中止になって残念至極の思いでした。”復活戦”でメンバーも入れ替り、何と”やまなみ”の担当が私の所へ来てしまいました。

河口湖駅から文化洞トンネルまでタクシーに分乗。四十数年前、毎夏、西湖でキャンプをしていた頃にはこのトンネルが無くて山道を登ったことを思い出し、周囲の景色もだいぶ変ったナア・・・。と、さあ大変、会計で忙しかった坂口さんのリュックがタクシーの下で1回転。同じタクシーに乗っていた者として責任を感じました。気を取直して、さあ登山開始。登り始めるとすぐに急坂。途中中学生の団体と励まし合いながら毛無山へ。40分余りで山頂へ、他のグループの人も誘って恒例の歌と万歳で登頂祝いをしました。西湖の向うに大きな富士山が山頂付近に雪渓を残して青く聳えて見えました。静岡県から来たグループの一人が「富士山は静岡県側から眺めるのが一番」とのたまうが異議を唱えず拝聴して、次なる目標の十二ヶ岳へ。毛無山から見る十二が岳は岩稜連なる険阻な峰「どうやって登るのかしら」とドキドキしていましたが”案ずるより生むが易し”歩き出したらハイキング気分でついおしゃべりに花がさいてしまう。そこですかさずリーダー部長の声「下りではしゃべらず足下に注意すること！」

一ヶ岳から十二ヶ岳までは榜は確かに十二本立っていましたが岳と呼べるのは八つくらいだったような気がします。鎖場あり、吊橋ありイワカガミありアカヤシオありの1ヶ岳毎の変化を楽しみながらあっという間の十二が岳でした。頂上で例の歌と万歳の後お昼のお弁当を食べたらもう下山です。（もう一つ向うに見える山にも登りたいなあ。）

リーダー部長の「昼食後の一時間は最も事故の起りやすい時間帯、充分に注意するように」というお言葉を肝に銘じて下山道を歩き出しました。曲りも少なくほぼ一直線のひたすら下り続ける道を休憩もなく1時間15分行くと温泉に到着しました。（40年前にはなかった。）男女ともそれぞれの”美人の湯”に入浴後またまた恒例の反省会で大いに反省しました。





山名	毛無山～十二ヶ岳 (1500m) (1683m)	山行 形式	日帰り
月日	平成１３年６月２日（土）		
山域	御坂山塊	地図	河口湖西部
目的	５周年記念山行 山頂からの大展望	交通 機関	ＪＲ　タクシー 富士急　送迎バス
日程 ｺｰｽ	我孫子 5:33→西国分寺 6:47→高尾 7:10→大月→河口湖 8:40→(ﾀｸｼｰ) →文化洞トンネル 9:00→毛無山 10:30→十二ヶ岳(昼食)12:25 →富士西湖温泉いずみの湯(入浴)14:05/15:30 →(送迎ﾊﾞｽ) →河口湖 15:54→大月→高尾 17:54→西国分寺→我孫子 19:45 ＜歩行時間：5時間5分＞　＜費用概算：6千円＞		
参加者	村松敏、大串恵、大串秀(ＣＬ)、小黒(やまなみ)、菊地(カメラ)、斎藤(Ｌ)、榊原、中村美、安田(ＳＬ)、武内(ＳＬ)、山西、高橋潔、川崎(やまたん)、坂口(会計)		

＜６月＞

思　親　山

(1,031 m)

ﾘｰﾀﾞｰ斉藤　清一

親孝行できたような気分の山行

平成１３年6月3日（日）、5周年記念富士山展望、11回目目である。身延線沿線の大きくなだらかな山で牛が腹ばいになっているような姿の山である。ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸを見ながらの計画であるが、文献も乏しいが山梨百名山である。

時間の短縮と旅費の倹約を合わせて、ﾊﾞｽでの計画とした。幸いにも１７名の参加を見たので当初の目的にはかなう事になった。小型ﾊﾞｽ車の予定であったのが、いつものｻﾛﾝｶｰなのに戸惑った。ﾋﾞﾃﾞｵ装置もC/D装置もセットされている。山のﾋﾞﾃﾞｵも山の音楽も用意しておらず、幹事役として地団太を踏んだ。

村の観光係の説明によると、ﾀｸｼｰなら佐野峠まで行く事ができるが、道幅が狭いので峠の前の三叉路でﾊﾞｽを降りて、登頂すると60分程で峠まで行けるが、大型車はﾕｰﾀｰﾝ出来ない恐れがあるとのｱﾄﾞﾊﾞｲｽであった。今回はいつもの運転手さんの弟さんである。多少の不安が過る。5月3日に計画されていた　“毛無山～十二ヶ岳”、五周年記念の山行が雨で前日の６月2日に行われた。前日と本日と掛け持ちの人が5人も山行に参加しくれた。両日とも早朝からの出発で、五人の体調が気になる。

7:10頃。最初のｻｰﾋﾞｽｴﾘｱでのｺｰﾋｰもおいしく飲めたが、30分発が30分間の休憩と思われた方が一名、ﾄｲﾚまで大声で探し回る。7:30分発と確認を怠った自分を恥じる。ご迷惑をかけました。ﾊﾞｽは快調に走るが、我孫子を出てから3時間30分で身延沿線を走っている。富士川沿いを走るが道路は狭く工事が行われている。運転手さん目的地から外れている事に気がつき始める。内船駅まで戻る踏み切りを横切っての上り道、不安が一杯、急勾配で狭い坂を登り始める。所々に石が崩れ落ちている。ﾕｰﾀｰﾝが出来るか心配の時間が経過する。後ろから車が追ってくる。目的地に向かっているとの事、と広い場所が在る、青葉が光に当たり輝き、舞い踊る。道端の茂みには木ｲﾁｺﾞが赤く沢山なっている。子供の頃に帰ってわーわー騒ぎながら、摘み取って口に入れる。甘い。甘い。曲がりくねった道を登り切ると、佐野峠だ。さあー記念写真だ！富士山に雲が掛からないうちに、とA班、B班毎にﾊｲﾎﾟｰｽﾞ。五月度の5周年記念の山行を行った“長者ｶﾞ岳～天子ｶﾞ岳”の後方に富士山が雪もなく聳え立っていた。

段差の木段がくねくねと続く稜線をのぼりおりする事を繰り返す内なだらかな草原に着く、ここが思親山頂上である。かの日蓮上人が遠く離れた故郷におられたご両親を思い幾度と無くたたずんだ姿が、やがては思親山と呼ばれる様になったとの事です。頂上に着いたなら先ずは富士山ﾊﾞｯｸに記念の写真を！次に富士の歌を！そして万歳三唱を！それから昼食だ！の約束ﾒﾝﾊﾞｰ全員守る。山梨百名山巡りをしている御夫婦が記念写真のｼｬｯﾀｰを押してくれる。交えて歌と万歳まで付き合ってくれる。富士山を眺めながらの食事はおいしい！おいしい！

食後の一時間気を入れて坂道を下ろう。全員で確認しあう。なだらかな坂道を下る二回程林

道に出るが登山道の方が足になじむ。矢木沢林道まで２時半頃の待ち合わせをﾊﾞｽの運転手としており、坂道をﾊﾞｽが途中まで来るとみんなを励まして下る。結局ﾊﾞｽが待機していた矢木沢林道の端まで歩いてしまったが、親孝行できたような気分の山行でした。

やまなみ　大桃和子

緑深き
おだやかな
展望の山

我孫子駅からﾊﾞｽ（大型車）で17名で出発しました。ﾊﾞｽがJR身延線の内船駅で山里から山奥へと進んで行くと次第に道幅が狭くなってきた。左右のｶｰﾌﾞが多くなり、運転手泣かせの難しい道が続きました。佐野峠までは険しい道、路肩がくずれ石ころが道端にころげ落ちていた。前進できそうも無い、そんな困惑時に、山奥で車が来るとは予想もしていなかったところへ地元の運転手、前進できると聞き、狭い道も難なく通ることが出来て安堵する。やがて目的地の三叉路に無事到着する。

三叉路から暑い陽射しを浴びながら、佐野峠に向かう。45分程の登りで汗をかきはじめた頃佐野峠に到着、雲の中から富士山がﾎﾟｯｶﾘと顔を出して私達を出迎えてくれて感激しました。班ごとに写真を撮り水分の補給、ｽﾄﾚｯﾁ等を行い、いよいよ思親山を目指して歩き始めました。林道に入り整備された“ﾋﾉｷ”の植林地帯や雑木林の尾根道は長い緑のトンネルの様でした。緑の涼しい風を体に受けながら歩いていると

ｵﾚﾝｼﾞ色に輝いている木ｲﾁｺﾞの実が沢山目に入りました。思わず一粒口にすると美味しい、皆も美味しいと歓声を上げて“生き返った気分ね！”と自然の恵みに感謝した次第です。途中丸太の階段が五ヶ所有り土留めもしっかりとしていました。足にやさしい道のりで順調に進み南北に長い思親山の頂上に到着しました。思親山は親思いの日蓮上人が登って故郷を偲んだ故に名付けされたそうです。山梨百名山の標識があり霞が掛かった富士山の展望はすばらしい景色でした。記念写真、万歳三唱、富士の歌を合唱し、昼食休憩をゆっくりとりました。

昼食後1時間は魔の時間帯と注意を受けて慎重に下山を開始しました。ｽｷﾞの木やﾋﾉｷの植林地帯を抜けて林道に出るとﾜﾗﾋﾞや山菜が時期外れながら沢山あるのに驚きながらﾊﾞｽの待ち合わせの八木沢に無事に到着することが出来ました。帰路も自然渋滞の中最後まで楽しいひとときを過ごすことが出来て思い出に残る山行が出来ました。

思親山概要

山　名	思親山	山行形式	日帰り
期　日	平成13年6月3日（日）		
山　域	天子山塊	地形図	
目　的	五周年記念	交通機関	ﾊﾞｽ
参加数	17名	ﾘｰﾀﾞｰ	L斎藤

ｺｰｽ

我孫子駅(5:40)⇒談合坂SA(7:15/7:30)⇒船(9:30)⇒大峯三叉路(10:20/10:35)～佐野峠分岐(10:45)～佐野峠(11:20/11:30)～思親山(12:10/12:50)～ﾊﾝｸﾞﾗｲﾀﾞｰとび台跡(13:30)～林道(14:05)～八木沢(14:35)⇒我孫子駅(20:35)

＜6月＞

越前岳～呼子岳～位牌岳～愛鷹山

愛鷹連峰縦走

(越前岳 1,504 m 愛鷹山 1,188 m)

ﾘｰﾀﾞｰ 清家美保子

リーダーの悶々

富士山シリーズのおかげで、今年は随分と御殿場方面に来た。どうせなら愛鷹連峰縦走と決めたが問題がある。割石峠から位牌岳にかけて難所があること。一日で歩くには歩行時間十時間はあること。愛鷹山荘泊にしても、1時間程短くなるだけで、泊り、炊事道具を背負っての行動となる。須津山荘も流れが良くない。ふもとに宿を取ったらどうだろう。早朝出発、荷も軽く難所も少しは楽だろうし、岩場の山を挑戦する人にも良いかなと考えたりする。愛鷹荘は9,000 円、三日前からキャンセル料半分取ると言う。こりゃだめだ。大富士旅館は 8, 000 円、雨天中止 OK。登山口迄何時でも送って下さるという。下山口のゴルフ場迄タクシーに来てもらえば歩行時間 8 時間 30 分位になる。これで行こうと決める。前日泊なので土曜日はゆっくり出れば良い。バス利用ならば御殿場から十里木行最終は 16：15 分。新宿-松田廻りで行くと 600 円安くなる。バス停「淵」の目の前が大富士旅館である。

翌朝 4：00、登山口迄送ってもらい、越前岳山頂で宿のおばちゃん心づくしの三色おにぎりを食べる。これ迄は順調であった・・・が 5 分ほど歩いただろうか、体調の不良を訴える者 1 名。戻す、悪寒がひどい。抑えてもガタガタ震える。私たちは暑いのに。フリース、雨具を着せ、新聞紙を背中に入れ、ペットボトルの湯たんぽを作り、ツェルトを被せ 1 時間半程休む。以前やったと言う同じ症状の急性胃腸炎のようだ。少しは良くなったというので歩いてみたがフラフラである。どうするリーダー、タイムリミットだ。様子を見ながら歩けば、途中エスケープに考えた割石峠より全員下山だ。長くなれば病人も心配だ。戻れば越前岳は近いし、道も良く分っている。パーティーを分けよう。幸い柴さんがいて安心してバトンタッチ。大串さんが下山組に入って下さり、私も安心して下りられる。越前山頂 9：25 分。下山 12：15 分。「大富士」さんが迎えに来て下さり、岩風呂を沸かし、病人をすぐ寝かせ、私たちには親子丼のご馳走。そして柴パーティーと合流するために沼津に行く途中の駅まで送って下さり、タダで良いという。そんな訳にはと 3 千円（風呂代として）置いてくる。またきっと来ますと言って。

病人が出て心配したけれど、「大富士」さんのお陰で病人もゆっくり休めて回復し、後味さわやかな山行となりました。

やまなみ　柴 勇

5 年越しの願いがかなう

愛鷹山は、5 年前、12 月に行った山だ。ルートは今回とは逆で、沼津から入り、愛鷹山に登った後、須津山荘に泊まって、翌日、十里木から登り返して、位牌岳まで行こうというものだった。残念ながら 2 日目は、呼子岳までで撤退した。いつか機会があったなら是非登って見た

い山だった。

朝 3 時に起きてみると、星が出ていて富士山も薄暗い空に其の雄姿を見せてくれた。われわれは、山頂からの富士の展望を期待して、民宿の主人の自動車で、登山口に向かった。この時季は、4 時にはかなり明るく、ヘッドランプはいらなかった。低山でも早朝は気温が低くさわやかで、暫くのあいだは、野鳥のさえずりがきこえ、新緑の空間を楽しんだ。

まだ朝食は取っていないので、愛鷹山荘で休憩をして、民宿のおばさんが作ってくれた三食のおにぎりをありがたく頂いた。幸いに水が冷たかったので、水筒の水を入れ替えた。越前岳までは気持ちよく朝の涼しいうちに行動ができた。特に多かったのは、ドウダンツツジでしかも白がほとんどで、赤い色や、ピンクのものは時々見かけるていどだった。

呼子岳山頂では、鈴鹿労山のメンバーと出会った。十里木にテントを張って今日にはここから引き返して帰るという。肝心の鋸岳をやるだけの時間がないのだ。お互いに記念写真を撮り合ってエールを交換して分かれた。

いよいよ核心部の鋸岳である。入口には、崩壊していて危険なので『入山禁止』のたて看板が立っていた。事前に清家さんが役場に問い合わせて通過可能であることは知っていた。歩き出して始めは岩場のトラバースが続く。片側は急斜面に立ち上がり、足元は急斜面に切れている。足場は狭いが慎重に、備え付けの鎖を伝って切り抜ける。

まもなくピークが近づいた。ここで、各自、ハーネス（シュリンゲ）とカラビナを着装する。これをつけると、なんと無く緊張感と、岩に登れるんだと言う喜びが全身にわいてくる。一人ずつロープで確保し全員最大の難所を切り抜ける。このあとは、岩場の登り下り、そして、トラバースが位牌岳の登りまで続く。途中崩壊がひどく、ルートがわかりにくいところがあり、標識も壊れていて、ルート確認に少し手間取る。また、岩がぬれていて（乾きにくい岩）滑り易いところもあった。だが、ロープ確保は 2 箇所だけで済んだ。みな、岩場の経験者なのでその点は安心だ。

位牌岳への登りは無風で蒸し暑く、汗が止めどなく流れた。山頂に着くと広く、休憩には丁度よい。富士市内の高校の登山部の生徒たち 20 名位と休憩を過ごした。位牌岳の山頂で、大串さんと携帯で連絡が取れた。三人とも無事民宿に着き、斉藤さんも民宿の手厚い手当てを受けて、小休止していると聞いて、我々もみな安心した。愛鷹山でさらに、大串さんと連絡を取り、丁度沼津の下山時刻に合わせて、駅で落ち合った。今回は、アクシデントのために三人が断念せざるを得なかったが、次回くるときには 5 月のまだ涼しい時期がいいでしょう。

概　要

日時：平成13年6月16日(土)、17日(日)

目的：5周年記念山行シリーズ。要所で富士山を見ながらの長い縦走

山　域：愛鷹山塊、　歩行時間：8時間30分

参加者：L清家、SL柴（やまなみ）、外崎、大串秀、大串恵、斎藤、武藤(カメラ)、青山(記録、やまたん)　　8名

コース：

1日目：我孫子13:28＝小田急松田＝御殿場ー(タクシー)ー須山17:20　旅館泊

2日目：須山4:00ー(旅館車)ー愛鷹神社4:20～愛鷹山荘4:35／5:05～富士見台6:15／20～越前岳6:43／7:00～休憩7:15／8:50～呼子岳9:20／30～割石峠9:40～蓬莱岳9:50／10:00～鋸岳10:00～位牌岳12:03／20～袴腰岳13:05／15～愛鷹山14:22／30～愛鷹ゴルフ場15:50ー(ﾀｸｼｰ)ー沼津18:05＝品川20:30＝我孫子21:40

＜7月＞

雨ガ岳

（ 1,777.7 m）

ﾘｰﾀﾞｰ 外崎 連

小さい頃の懐かしい味を口に・・・

5周年記念山行実行委員会が、富士周辺の山14 山のリーダーを決めた時、「外崎さんにふさわしい山があるよ。」と柴さんや村松さんに含み笑いされたのがこの山。ガイドブックを見ると、急登のうえ笹が深くて、笹の上に首を出したり足で探りつつ進む個所もあるとのこと。この梅雨時、さらに雨でも降られたらと気をもんでいたら、当日はカンカン照りとなった。

参加者は10名。西国分寺駅の階段を走り下りたお陰で速い電車に乗れ、その後もトントンと進み、河口湖駅にはタクシー予約時間よりも大分早く到着。時間がもったいないので訳を話して別のタクシーに5人ずつ乗り、根原まで連れていってもらう。今日は折しも富士山の山開き。河口湖駅前の常駐のタクシーが足りないのではと思いきや、客待ちの車が目立った。根原でタクシーを降り、運転手さんに教わった細い舗装道路を、右手に曲がって下り気味に行く。やがて赤い鳥居が見え、お地蔵様の前を通ってその先で十字路に出る。ここで始めて指導標に出会う。貯水池の土手沿いに進むと、前方に端足峠を挟んで左に雨ガ岳、右に竜ガ岳が並んで見える。強い日差しの中、夏草を踏んで行く。このあたりは桑畑であったらしく、今は大木となった桑の木が何本も茂っていて、赤や黒の小さな実を沢山つけていた。黒い実を口に入れると、私の小さい頃の懐かしい味がした。

その昔、私の家では蚕を飼っていた。家の裏山には、葉を摘むのに手頃な大きさの桑の木畑が広がっていた。ある日、私は日が暮れるまで一人でそれらの木に登って、はいていたスカートをたくし上げ、その中に真っ黒に熟れた大きな桑の実を摘んで、ついでに指も口の周りも真っ黒にして家に戻った。当然のように下になった実がつぶれスカートを紫に染めて、母親に叱られたことを思い出す。

いよいよ杉林の登山道となる。ゆるやかに登って丁字路に来たら、左手に曲がる。ジグザグに登っていくと杉林がきれ、明るい雑木林の端足峠に出る。右手には竜ガ岳がこんもりと盛り上がり、その下方には本栖湖の湖面が見下ろせる。樹間を渡ってくる風が心地よい。雨ガ岳へは左手の道を行く。この辺りは笹が刈られ気分も良いが、登りになった頃から樹林も深くなっていく。この後、山頂までは殆ど平坦な場所がないほど、ほぼ一直線に 500m程登る。笹はガイドブックに書かれた凄さはないが、それでもうるさい。樹林の間からは、富士山がいつも背後に見え隠れしている。ひたすら登ってやっと山頂にたどり着くや否や、正面の巨大な富士山に向かって、♪頭をた～か～く♪と合唱し、万歳三唱。私たちの他には誰もいないので力が入る。ほとんど雪のなくなった富士山が、美しい裾野を左右に伸ばしてすっくと立っている。来月になったら登っておいでと招いているようだ。

山頂部はそこだけがポッカリと笹が刈られ、芝生のような草が茂っていて、昼食後はゴロリと横になる。

山頂からは、毛無山方面に細々と道が続いていたが、指導標がほとんどなく、道も踏み跡が不明だったりする個所もあるとか。

昼寝を楽しんだ後は山頂に別れを告げ、端足峠まで一気に下る。計画ではここから竜ガ岳方面へ進み、右折して急斜面を下ることにしていたが、11年発行の2万5千図「精進」には載っていないので十字路まで下り、ここから長い長い平坦な道（東海自然歩道）を飽きるほど歩いて、県境に出る。この自然歩道は深い杉林の道で、昼でも薄暗かったが、昼下がりのカンカン照りを避けるのには良かったかも。

車道を横切り一軒しかない食堂の空き地で、今朝のタクシーを待つ。河口湖駅へ戻る途中、車道の横に気温31°の表示が出ていた。この辺りは一頃まで、こんな気温は一夏に何度もなかったことだと運転手さんは驚いていた。地球温暖化なのだろうと話ていた。

というわけで、みんなの喉もカラカラ現象を起こし、河口湖駅前に寄り道して帰宅の途についた。

やまなみ　千葉　有子

「幼子（おさなご）」のような雨ヶ岳

季節は梅雨の真っ最中。山の名は「雨ヶ岳」、とあって当然雨具をつけて登ることになるだろう……。その予想に反して天気は快晴。偶然にも今日は富士の山開き。しかし、富士急の電車の窓から見える富士はすでに無冠雪。三ヶ月前、十里木高原から眺めた白い富士はどこに行ったのだろう。「なんだか富士らしくない」と贅沢な不満を口にする。

でも、登ってみた雨ヶ岳の印象は、「まるで富士に抱かれた幼子のよう」。なぜなら、緑に覆われたシンプルな姿。そして、何より登りは登り。普通の山は、登っているはずなのにやたら下って「もったいない」思いをするものだが、ほんの短く下ったのは端足峠を過ぎた辺りだけ。ただ、ただ頂上目指して登る。本当に素直な雨ヶ岳。

素直なのは雨ヶ岳だけではない。貯水地の近くで桑の実を見つけ、端足峠でキイチゴを見つけ、そのたびに歓声を上げて頬張る。頂上に着けば、大きな声で「富士の山」を合唱。そして万歳三唱。堀口さんの持ってきたサクランボに「10個も食べちゃったわ（外崎さん）」、「私は会長に遠慮して9個よ（清家さん）」「俺は2個しか食べなかったぞ（高橋さん）」……。「まるで幼子のようだ」とわたしたちを笑って見ていたのは雨ヶ岳の方だったかもしれない。

頂上から見た富士は、北西の裾野に青木ヶ原の樹海を従えて、やはり堂々とした日本の富士だった。「富士らしくない」なんて思ってごめんなさい。下山路ではシモツケやカンアオイ、オダマキを見つける。山の名に反して快晴の中の登山。峰を渡る涼風に救われた、楽しい一日でした。

概　要

山行形式　日帰り（バス利用）
期　日　平成13年7月　1日（日）晴れ
山　域　天子山塊
目　的　富士山の展望
参加数　10名
コース
我孫子駅(5:33)⇒河口湖（8：40/8：50）⇒タクシー⇒根原（9:20/9:30）～T字路～端足峠～雨ヶ岳（12:15/13:10）～端足峠～T字路～県堺バス停（15:10/15:40）⇒河口湖（16：15/17：51）⇒我孫子駅(21:30)

＜７月＞

ひちめんさん

七面山～八紘嶺

(1,989 m)　(1,918 m)

ﾘｰﾀﾞｰ 細野省二

多くの信徒が登る名刹と迫力の大崩壊の山

霊場として有名な七面山の登山口は２つある。一つは甲府経由で身延線下部温泉駅でタクシーに乗り継ぐ角瀬集落の裏参道。

もう一つは春木川を南下し白糸ノ滝や神力坊から表参道等のやや距離のない登り道。

長い尾根を私達４人が静かに歩くためには、『神通坊の方が良いのでは！…』とのタクシー運転手の言葉で決まった。

私達の選んだ登山道はよく整備されて歩きやすい巨大木々の静寂で無人のゆるやかな道であつた。静かで落ち葉のクッションが心地よいが、なにしろ奥の院までの標高差が１３００ｍほどもあり終始、急がずあせらずのペースを守った。参道脇には、地蔵群や何丁目と書いた丁目石が心を和やかにする。

不思議な光景に出会った。それは山道に沿って山上の方から水のホースがどこまでもどこまでも引いてあり、休憩した安住坊兼茶店のおじさんにたずねると水を山頂から引いているとの事。下から引きあげるなら分かるのだが？、地形図上には山頂に池がある…が？常時給水できるほどの「飲み水」ではなかろう。「飲み水」がそんなにあるわけでもないのに？…と思った。

高度を稼いだ疲れを癒すため茶店に寄る。富士山が大きく見えたが…何度も雲にじゃまされてしまう。

富士山シリーズの写真を義務づけられた安田、細野清子の両女性カメラマン２台の競宴であったが…はたして富士の写真は撮れたのだろうか。

樹間から白峰南嶺の山々が望まれる。休息を15分。ベンチで仮眠した。

ゆっくりと樹林をめでながら静かな道を３度の休憩をはさみ先を急ぐ。遠くに読経の声が聞こえてきた。そこは奥の院の裏口であった。無料のお茶をいただき、静かな時が止まった気に触れる。隣にとてつもない大きな石…影響石に難解な質問を心に問うていた…が、我ら凡人には何一つ解からないままでした。

奥の院からはほぼ平坦に広い道を２０分ほど、明るい空が広がる道に近づくと本日の宿⇒日蓮宗の一大霊場⇒敬慎院からも一段と大きな読経が聞かれるようになった。なにやら荘厳な気持と、やっと宿泊地に登り着いた安堵感でホッ！とする。

山頂に近い山中に壮大な１０００人は泊まれる寺院がある。この日の大宿坊の宿泊者は300人位だった。夕食は殺生なものを排除し、一汁三菜の質素な精進料理。だが、日本酒も少々出たが参加した皆さんはあまり飲まない人ばかりでした。修業中いずれも恐い顔で憮然とした態度の見習手伝い方（僧侶）が宿泊の我々に15ｍ位の長ふとんの敷き方を指導してくれた。だが「早く敷け」と要領の判らない登山者を急がせる。その日は各人、イモ虫のように並んで寝た。だが、なるほど合理的だと思う，フトン等の跡かたづけも丸める迅速な方法であることに感心した。

祈祷代を含む宿泊費は5500円で安い。正座して聞く長い読経（40分）は足腰が痛くなるほどでした。

朝は4時から宿泊者や信者が起き4時36分ピンクの空から現われる日の出を山門前まで見に行く。だんだん空に太陽が現われる富士は荘厳で万歳三唱が登山者や、信者を酔わせていた。高ぶる自分が日本人である事を富士山の姿を通して自覚する。

大崩壊ナナイタがれに胸どきどき

第2日目　富士を仰ぐ隋身門の前から七面山へ向かう、架線小屋の右手を通り、なだらかなコメツガやモミの樹木の径を通るが、それも15分ぐらい。左手のすざましい崩落を想像しながら緊張の身震いで早足に山頂をめざす。

今回の山行の主な対象は七面山である。有名な大崩落があるから私達は七面山に登りに来たのだ…。山頂は平坦に2等三角点がある。写真に収める。周囲を樹林帯に囲まれた広い平地だ。

ここから先はやや難路で細い。しばらくは尾根も昇降を繰り返し地形も複雑で地図を頻繁に見ながらの歩行。小窪地を見て尾根が狭くなると希望峯である。稜線は小さいながらアップ、ダウンがどこまでも続く、縦走南下中に幸いにも南アの巨大な山脈約が見え盛り上がる。南アルプスの笊ケ岳（谷底から2000m近いせり上がりの山）の美しい姿、白峰南稜の名峰に恥じない堂々たる眺めに圧倒される。後方に荒川岳、赤石岳、北には甲斐駒の姿が遠くに見えたが霧の時など方向には充分注意が必要なところだ。

このコースはかなりの距離がありアップダウンがいやなほど繰り返される。針葉樹林の原生林や笹原など次々に展開する自然に浸れるわけで南ア深南部を目指す第一歩になろう。

第2三角点から南部の八紘嶺へ
これぞ南アルプス級の苦しさ

八紘嶺との中間に位置する第2三角点は、展望には恵まれないが、小広いピークだ。アップダウンの稜線の連続は時間を経過するほど口数が少なくなつた。ここから非情にも一度コルまで下る。いつのまにかSさんのお喋りもピタリとなくなった。

持参の水を調整しながらのどを湿らす。さらなる追い討ちは20～30mの小ピークを何回も何回も上り下りする。

八紘嶺山頂では初めて人に会う

「最後の登りだ」と元気をだすが、もう一つのピークが前方をふさいでいる。小刻みなアツプダウンに我慢、ガマンと自分に言いきかす。「仲間は僕と同じように、我慢しているのだ」そう考えなくちゃ山はヤッテラレナイ！…

ようやく八紘嶺ピークに立った。ここは小広い休憩地、七面山より南下以降、頂上で初めての登山者に会う。地元、静岡の5人のグループでした。地元の人は温厚でした。「千葉からここまで来たのなら大谷嶺と山伏岳』に是非登つて…と薦めてくれたが…。霧が出てきたので長居は無用だ。

八紘嶺山頂から安陪峠、梅ケ島温泉まで一気に急下りの連続でつま先に気をつけながら標高差1400mのつらい長い下降でした。

待望の温泉口に到着したがバスの発車まで20分ほどしか時間がない。信玄隠しの湯をゆっく

り味わう山行計画であつたが、バス時間にセカサレテ温めの内湯に入湯時間わずか７分の『カラスの行水』に終わってしまった。

充実した山行に終始した深い山（安陪奥）の魅力に満足した４つの良い顔が無事下山の握手をかわす。唯一の誤算は温泉だった。ゆっくりつかるはずだったのに。――悔やまれる。

やまなみ　斎藤　清一

今夏一番の猛暑、仮眠で元気に

7月14日(土)～15日（日）五周年記念富士周辺の山行ｼﾘｰｽﾞの最終の山行が行われた。

当日は今夏一番の猛暑であった。早朝の我孫子は蒸し暑く新宿発の特急あずさに乗り込んだ時は既に喉の渇きを感じていた。甲府から身延線に乗り換えた一行四人は山と川の淵を電車に身を任せながら、しばし山行談義にはなを咲かす。身延駅のひとつ前の下部温泉駅で下車する。乗客からのｱﾄﾞﾊﾞｲｽによる。登山口は下部温泉駅が確かに近かった、料金も安かった。

角瀬（七面山登山口）に着いたのは午前10時もうすでに太陽はｼﾞﾝｼﾞﾝと輝き照り付け始めている。神通坊で山行の無事を祈り赤い鳥居をくぐって登り始める。参道には丁目ごとに道標がありここから本日の宿“敬慎院”まで五十丁と書いてある。しかし蒸し暑い！我々が登っている道は裏参道で人とは出会わなかった。日蓮宗の信徒の人々は表参道を登るとのことでした。十九丁目の安住坊の茶店に着いたのは 12 時を回る頃でした。安住坊の茶店は本日閉じていた。日朗上人手植えのﾄﾁの木は七百年もの間に大きくなったのであろう。三人で幹の周りを手でつないだが大きすぎて。記念にｼｬｯﾀｰ　ｶﾁ！

三十丁目の明浄坊に着いたが、ようやく視界が開けて東屋からは富士さんが雲を被っているのが見える。もうすぐで雲がとれる。ｼｬｯﾀｰﾁｬﾝｽがやってきた。　すばらしい！

この暑さはたまらない（ここで26度との事）体温を下げるため 20 分程仮眠。寝覚めが良い、体がｽｯｷﾘ、元気が出てきた。

奥の院でお茶を頂き大きな宿坊のある敬慎院に着く。このような山奥に大きな伽藍には皆ﾋﾞｯｸﾘ、信徒がどんどん表参道から登って来る。宿泊部屋に通されるが既に 15 人～20 人がたむろしていた。入浴は可能との事で例のごとく石鹸なしで身を清める。勤行が始まる。本日はきしくも新盆である。信徒の方々に混じってお勤めに参加する。同行のＹさんは団扇太鼓を借用してﾄﾞﾝﾄﾞﾝ、ﾄﾞﾝﾄﾞﾝ、と叩いている。初めてにしては信徒の方々と同じﾘｽﾞﾑ。

夕食はお寺であるので精進料理一飯、一汁、二菜、二合のお酒を１２人で、朝も同じ。ﾛｰﾙ状の布団（敷布団と掛け布団）に潜り込み眠る。

4 時の起床で宿坊から外に出て階段を登り山門をくぐると広い広場が、ここからの富士山の展望が素晴らしい。

日が昇り始めると信徒の人々はお経を唱え始めた。中には３年で３００回近く来られてるとの事。

私達のみが七面山に向かうらしい、敬慎院からの喧騒から離れて静寂の世界に入り込む。大崩落の崖を木々の間から見ながら上り詰める。今朝も暑い！　七面山の頂上は展望が良くない。

周りは樹林だ。記念写真を！

樹林の中をくだり、更に登ると喜望峰にでる。南ｱﾙﾌﾟｽの展望が素晴らしい。1,918m の八紘嶺は目と鼻の先である。八紘嶺の山頂から話し声が聞こえてくる、本日始めて登山者と会う。静岡県の２組の夫婦。しきりに“山伏”をすすめる。次回の山行に期待して、富士山が展望できる富士見台を目指す。水を飲んで、飲んで、腹はミズハラ、何にも食べたくない。

くだりに下って昼飯も食べずに山を降りる。「梅ヶ島温泉で昼飯だ」を合言葉に降りる。武田信玄の隠れ湯だと言われている梅ヶ島温泉で汗と鋭気を養う。1時間40分かけて静岡駅にでる。静岡駅から東京駅をﾊﾞｽの旅。新しい経験、豪華弁当を食べながらﾊﾞｽの車窓から眺める景色が五周年記念山行の14ヶ所の数々思いでと経験が走馬灯のごとく通りすぎて行くの感じました。

概　　要

日時：　１３　年７月１４日（土）～１５日（日）
　　宿坊、１泊

目的：
　①、富士周辺の山シリーズ完結。　最終の山へ！
　②、２日目７時間の歩行体力で、南ア展望と富士山を望む。

歩行時間：　１日目：４時間、２日目：６時間、
地　形　図：身延、七面山，梅ガ島
費　用：約１万５千円（全て含む）
参加者：（Ｌ）細野省・（ＳＬ/会計）安田・（写真）細野清・（やまなみ）斎藤
コース：
（１４日）成田線我孫子駅 5;30⇒新宿特急あずさ１号 7;00⇒甲府 8;35⇒下部温泉 9;30 タクシー～角瀬（七面山登山口）10;00/10;15…安住院 12:00/12:40…明浄院 14;10/15;25…敬慎院,宿坊（泊）16;10
（１５日）敬慎院 5:55…七面山 6;50/7;00…第２三角点 7;25/7;30…八紘嶺 10;00/10;20…富士見台 11;00/11;20 … 梅ケ島温泉 12;10/13;15⇒ＪＲ静岡駅（高速バス）15:05/16:00⇒東京駅 20;23⇒我孫子駅 21;30

＜8月＞

富士山（A吉田口）

(3776 m)

ﾘｰﾀﾞｰ 日下芳十

後ろ髪を引かれる思いで・・・

1．自宅出発時小雨だつたが全員集合予定どうり出発、高尾駅到着時かなり強い雨なので山小屋に問いただしたところ、雨との回答だつたが現地むかう。

2．5合目でからだを慣らし、雨の中頂上目指して歩くも天候回復兆しなし。6合目安全指導センター到着時風雨が強く下山者に天候を尋ねたところ、今朝から雨とのこと登頂をあきらめ下山決定、その旨富士宮口組に連絡下山する。

3．富士宮口組は、ガスの晴れ間に青空がのぞく、登山日和とのこと富士のふもとの巨大さをしる。

4．お中道に入り、ハクサンシャクナゲ、ダケカンバ、ナナカマド、コメツガ、などみごとな樹林帯をいく。道は平坦で石畳やスコリヤ層の上を歩く。7月中旬から8月上旬にかけてコケモモ、ベニバナイチヤクソウ、マイズルソウ、などの花が楽しめる。樹林帯を抜け火山荒原に出るとオンタデ、フジハタザオ、メイゲツソウ、ムラサキモメンズルなどの荒地に進出した先駆的な植生が見られる。50分ほどだ御庭のあずま屋つく。左には寄生火山噴火口が見える。時間があれば付近の散策も良い。あずま屋をすぎ、すぐ右側石段をスバルラインに向かって寄生火山の火口を見ながら下がる。スバルラインに出て左に少し進むと奥庭自然公園入口でる。

5．有終の美も飾ることもできず、後ろ髪を引かれる思いで又くる日を期待しながら下山口に到着。

一言集

花はなし木はなしの富士山は登るだけではちょっと・・・・。けど反対側から登ってくるDグループと頂上で握手できたらいいな・・・。お鉢めぐりも期待してたのに早々の下山は残念。次回はお中道のシャクナゲの咲く頃にあわせてぜひ。 (細野清子)

「残念！」 (中村隆泰)

雨の富士山はご機嫌ななめ

長い間登ってみようと思わなかった山⇒『偉大なる通俗！』、富士山。

山は岩より、石のゴロゴロより、砂れきより、高山植物が多い少ないより、天気が晴れるより、・・・長い間この山に登る気も湧かなかった。～そんな生意気な信条を持って臨んだ山でした。

・・・だが、六合目の天候で「引き返す」とのLの判断に、私自身は以外に冷静だった。ピークに登れなかった富士を下山にかかる・・・と、無性に登りたくなっていた！ (細野省二)

概　　要

日　　時　：　平成　１３年８月１９日(土)
目　　的　：　５周年記念山行
参 加 者 ：　日下(L)、松本(SL)、細野清、細野省、大桃(渉外)、長木（会計)、中野（会計)、中村（カメラ)、渡辺、高橋潔（記録)、(10名)
コ　ー　ス　：
　千代田線我孫子駅　５：３３⇒　高尾駅７：２６/７：４７⇒　富士急線河口湖駅９：２６/９:３５ ⇒　登山バス　⇒　５合目
　１０：３０/１１：１５　→　６合目安全指導センター　１２：００/１２：１０　風雨強くなり下山決定　→５合目　１２:４５/1:２０　小雨になり風もやんだのでコース変更　御庭　山行実施する。お中道入り口　１：２５　→　御庭　２：１５/２：３０　→　御庭バス停
２：５５/3：００　⇒　冨士急線河口湖駅
３：３０/3：４１　⇒　千代田線我孫子駅
７：０６

＜8月＞

富士山（D富士宮口）

(3776 m)

ﾘｰﾀﾞｰ 榊原文子

青緑の光がパチパチとものすごい光を放ち、やがて黄金に輝く火のかたまりがすーっと・・・

リーダーとは名ばかり、実力と経験のない私には富士山のリーダーはとても荷が重かった。早速地図を広げルートを調べる。時刻表とにらめっこで電車、バスの時間を調べる。結果、新幹線利用で新富士より富士急バスに乗り新五合目 のルートと決定。小屋も一通り電話し、元祖七合目小屋と決めた。

当日我孫子駅、全員そろったが一番不安なのは私だったような気がする。新幹線２号車（もちろん禁煙車）は早朝のせいで空席多し。しばらくして窓に雨が当たり始める。大した事はなさそうだ。新富士に着く頃にはすっかり天気も回復した。バスは御殿場、三島、どちらに下りてもＯＫの往復￥3000円と超お得。しかも終点まで３ヶ所も５分～10分間の休憩があり、浅間神社では運転手さんの勧めによりほとんど全員安全登山を願って下車し、お参りをした。バスの中から富士山がくっきり見え、いよいよだなあと心を引き締める。

新五合目登山口は観光客であふれ帰り、我々のようなスタイルの人は珍しいほど少ない。すでに2,400mの高度に慣れるため、一時間ばかり休憩し登山口へ。ガスがかかり周りは何も見えない。でも薄日が射し、だんだん明るくなり始めた。青空も見えるようになり六合目を過ぎた当りから雨の心配はなくなった。

元祖七合目には約２時間半かかり２時頃到着。しばらく休んで部屋へ案内して貰う。１枚の布団に２名づつ、既に用意されている。我々が一番だったので当然まだ空き状態。“しめた 今夜は大の字で寝られる。”と喜んだのは大間違い。夕食後する事もないので早々にフトンにもぐり込んでいる間に、みるみる人で満杯。出たり入ったりうるさくて寝ていられない。山小屋というより一時休憩所といった感じだ。我々も１時頃には起きて、２時には出発した。体がフラフラと安定が悪い。歩いている横に黒い大きな何かがゴロゴロしている。よく見ると人が横になっている。ゆっくりゆっくり登る。

一名体調悪くなり八合目小屋で待機してもらうことにし、下山も同じルートと決め出発する。9合目5勺小屋を過ぎたところでご来光を迎える。青緑の光がパチパチとものすごい光を放ち、やがて黄金に輝く火のかたまりがすーっと上がってきた。本当に一瞬の出来事に息をのんで見守った。すごい感激。思わずバンザイを叫んでいた。

頂上にたどり着き、あらためて感激の握手。やっとやっと登った。本当に苦しかった。酸素を吸いながらの人もいた。皆よく頑張った。初めて見るお釜。黒く焼けただれて、ものすごい迫力。その脇でお湯を沸かしてコーヒータイム。最高に美味しかった。¥200払ってバイオの最新式トイレを利用。すごくきれい。匂いがない。

剣が峰では南、中央、北アルプス、日光連山その他の山々を見下ろし、全員で“富士は日本一の山”と声高らかに２回繰返して唄った。気分は最高、これで目的を果し下山することにした。天気に恵まれ風もなく、頂上にある浅間神社でこの幸

運を感謝し世界平和を祈願して、仲間の待つ八合目小屋へと向う。全員で、新五合目へは 10 時頃着。良かった、本当に良かった。皆で元気に戻ってこられたことが何よりも嬉しい。富士山は、眺める山、登らなくてもよい山といつも思っていたが、登ってみると何ともいえない満足感が残る。やはり富士は日本一の山、すばらしい山であった。リーダー部長の村松さん、会長の外崎さん、大串夫妻、箕輪夫妻、中村八重子さん、庄司さん、松村さん本当にご協力ありがとうございました。リーダーとしての仕事はほとんど何も出来なかったような気がします。皆様のおかげで大役を果すことが出来ました。本当に本当にありがとうございました。

やまなみ　庄司 洋子

憧れの山・富士山へ

どこへいっても富士山にあえば「あー富士山」と声をあげてしまう山、姿、形のすばらしい日本一のこの山は見るものと思っていたので今まで登ったことがない。が、五周年記念の締めくくりとして「富士山」が計画された。遂に登るチャンスがめぐってきた。

登りに特に弱い私は標高さのいちばん少ないと思われる富士宮コースを選んだ。

東京駅から新幹線こだまに乗る。登山靴でリュックサックといういでたちで乗るのはちょっと気がひけたが、自由席は空いていた。新富士で下車、バスで新五合目登山口に向かう。

バスは富士宮の市街地にある平安時代に建てられた富士山本宮浅間大社による。境内に一歩、足を踏み入れるだけで厳粛な気持に…無事に富士山に登れますようお参りする。境内には「湧玉池」があり、橋から浅い池底が見渡せ、水が湧きだしているのがよくわかる。名水を汲んでいた。バスはさらに途中トイレ休憩をして時間どおり、登山口に着いた。

休憩所で昼食、ゆっくり休憩時間をとり、いよいよ登山開始。

登山口から山頂の気象観測所の白いドームが見えるので一気に登れそうであるが、結構急斜面が続く。一時間ほどで六合目（2600メートル）に。この付近は、そんなに多くはないが高山植物が見られ、特にヤナギラン等が目をたのしませる。これから先はザクザクと砂礫を踏みしめて登る。私の足に合わせてゆっくりペースで。途中、左のこめかみがちょっと痛く高山病にならない前に酸素を吸ったほうが良いとのアドバウスをうけ使う。初めて使うのでちょっと戸惑う。さらに高度をかせいでゆき今夜の宿、元祖七合目小屋に着く。小屋の前から霧が晴れると駿河湾がみえる。

ところで今日は吉田口からのコースの山行も行われている。途中、携帯電話で連絡し合っていたが、吉田口の方は風雨が強く小屋に着く前に山行を断念したようである。こちらは天気がよいのに、やはり富士山は偉大だ。

小屋の人が話していたが毎年、単独で登って来る90歳台の登山者がいるそうである。他の山ではあまり見られない若い人たちそして子どもたちが多いのにびっくり。一

夏に約30万人、老いも若きも、男も女も、外国人も「一度は富士登山を」と志す。やはり富士山は特異な山なのであろう。

小屋は足が痛いと泣く幼児等、そして夜中の12時過ぎても宿泊する登山者が来る。ゆっくり寝ることは難しい。

2時前、真っ暗ななかヘッドランプをつけ頂上目指して登りはじめる。歩きにくい砂礫の道は、急坂を繰り返し高度を上げて行く。五時、頂上手前のところで御来光を拝する。青というか緑と思える光、そして直ぐにオレンジ色の太陽。何とも荘厳な気持になる。

五時半、浅間大社奥宮に到着。噴火口を見、測候所のある剣が峰を目指して一登り。写真を取る人達が列を成している。測候所の見晴らし台？に皆で登って恒例の"あたまをくもの…と大合唱。

こんなに晴れている富士山に登ることが出来て本当に良かった。

私が講読している新聞は創刊 130年記念行事として「富士山再生キャンペーン」をしていてゴミ問題、トイレ問題の記事を目にすることが多く、もっとゴミが目につくと思った。そして話題になっているバイオトイレを見た。ささやかな気持ちとして協力金を入れてきた。

7 時半、私たちもゴミをひろいながら下山する。

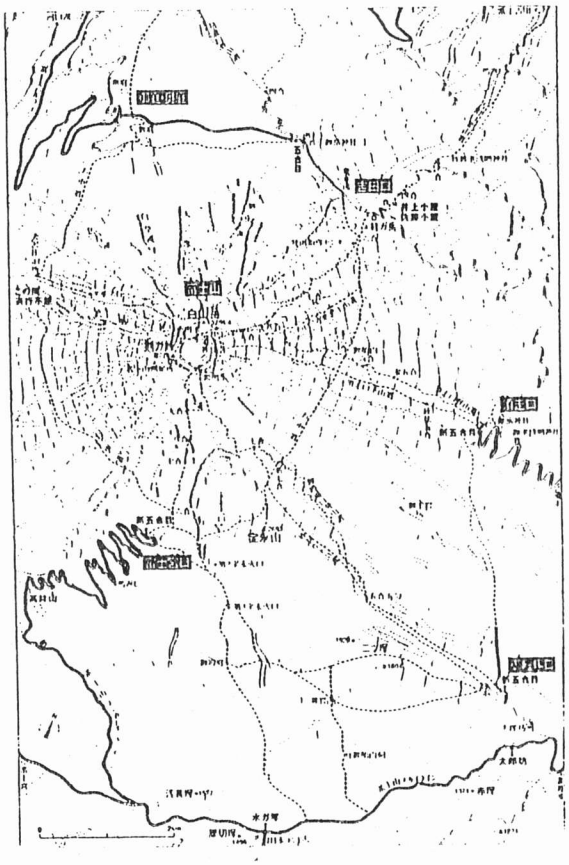
登りではわからなかったが、ほんとうに樹木のない荒涼とした赤茶けた溶岩の斜面が八合目辺りまで伸びている。

途中から雨具をつけた。山の天気は変わりやすい。おかげで？砂ぼこりがたたず、マスクの必要はなかった。

富士山衛生センターのある八合目辺りからオンタデの株が点在するようになり、六合目辺りはクリーム色だけでなくピンクのオンタデがあった。

11時、富士宮新五合目登山口に皆、無事下山。

帰りはバスで身延線富士宮駅へでて「青春18キップ」で帰路に着いた。



一言集

日本列島のほぼ中央にどっかりと立ちはだかって、四方の山並みを従える富士山は、春夏秋冬その姿を変えて私なりのイメージを作っている。

剣が峰から雲海に浮かぶ御坂山塊、茅ヶ岳、八ヶ岳、浅間山、日光白根方面、そしてアルプス連峰が眺望できた。目的達成を祝して「富士の山」合唱、万歳三唱。これで私の夏も終わった。

（箕輪カオル）

利尻、大雪そして富士山

ようやく体が山に慣れた４月、体調を崩した。もう山に登れないのではないか。利尻、大雪はとても無理か。迷いで胃がまた痛む。決めるのはあなた自身だと医者も結論を出してくれない。思案の末、周囲の後押しもあり思い切って決行。無事、登山できた。

そしてついに富士山に登る。山頂からは未踏の南、中央、北アルプスを。遠くは、日光連山も。真中になつかしい八ヶ岳。浅間も元気に煙を上げている。しばらくの間、自らの半世紀が頭の中を駆けめぐる。山は医者も及ばない復元力を持つのか！山は生の原点に連れ戻す力を持つのか！

（箕輪完二）

いつも遠くから眺めていた山。そんな日本一の富士山記念山行に意気込んで参加したものの、あえなく八合目でダウンしてしまった私。すっかりへこんでしまったけど、いつか再挑戦する日もあるかも・・・。

ご迷惑をお掛けしました。　（松村雅子）

元祖小屋での一夜には、あきれて笑ってしまった。時間ごとにぐずる子あり、吐く人、寝言を言う人、ヒシヒソ話をする人ありで、無呼吸の老人などは、９つか１０数えると、たまった息をぐはーと吐き出す。その間にも出ていく人、泊まりに来る人、決められた場所がいやだと逆らっている人ありで、寝ながらにして我が耳にした、他の山小屋にはない体験をして、もうウラフラ。

（外崎 連）

行けそうでなかなか行けなかった富士山。臭い山、といわれながら皆さんの努力でトイレの設置や清掃　等かなり改善されているなと思った。運営は大変でしょうが、山小屋の質をもう少し良くしなければ、世界のMT.FUJIは泣くのではないでしょうか。　（高橋芳恵）

高山病にてつらい山行でした。みなさんの協力により富士山頂上に立て感激です。ご来光はドラマチックでした。

ボランティア、富士山クラブの活動に頭が下がりました。少しでも近づきたいと思います。

（中村八重子）

１時５０分出発。数多の星が隙間のないほど空いっぱいに埋めつくされ、まるで宇宙の中に入り込んでいるよう。９．５合目の日の出は神秘的な光景でした。ほんの一瞬耀いたグリーンの光に、ビックリ。これが本ものの御来光だそうです。今回は４年前にできなかった剣が峰にも立て、大満足…。　（大串恵子）

最初の富士山は入会直後の５年前。１泊、グレードＢ、長時間歩行を、初めて体験した山行だった。この富士登山を契機に、その後は大型縦走、テント山行等も大いに楽しんでいる。５周年記念の富士山行。感慨一入である。　（大串秀雄）

富士山はやはり日本一の山だった

ー高さも人も山小屋の数もー

乗った電車からして、いつもの山行と感覚が違っていた。何と言ったって日本が世界に誇る新幹線に乗っての山行だからである。雨の東京駅を出発したと思ったらあっという間に新富士駅に着いた。

今回の富士山シリーズＤコース（富士宮口）のメンバーは男性３名、女性８名の計11名の参加で、当会の特徴の女性上位を端的に表している構成である。（しかもリーダーは名古屋出身の榊原女史です。）

バスに乗り、降りた５合目は人の波、逃げるように霧の中を今日泊まる山小屋「元祖７合目」に向かった。（このコースには１合目毎に小屋がありますが、新とか元祖とか頭に着いてる小屋が多い。何故か旧はない。）

翌日（19日）は御来光を見るべく、深夜小屋を出発する。どこを見ても登山道は人の波、ただ黙々と頂上を目指して歩き、御来光の瞬間を待つ。5時03分東の空が明るくなったと思うとはなやかな緑色の光が瞬間輝き、次に真っ赤な太陽が地平線を染めた。2001年８月19日の大自然の壮大なドラマが始まった。この時ばかりは、人は厳粛な心になり全てを忘れて無言で見入る。間もなく気が付いたかのように周囲から万歳の声が聞こえてきた。日本一高い場所での御来光は自然の奏でるシンフォニィーの中でも最大のクライマックスであり、又人に多くの感動を与えるものです。

当会が半年間取り組んできた 富士山とその周辺の山 シリーズもこのドラマを見るために計画され、実行されたような気がする。

剣が峰では周囲にいくら人がいても、恥らいも外聞も気にせず例の歌を２番まで（リーダー以外のもうひとりの名古屋出身の女性の指導で）歌い、万歳を何回となくして下山の途に着いた。

（村松敏彦）

概　　要

山行形式　山小屋一泊
期　日　平成13年８月18日、19日
参加数　11名
ｺｰｽ
１日目：我孫子駅(6:10)⇒新富士駅（8：22/8：35）⇒ﾊﾞｽ⇒新５合目登山口（10:50/11:35）～新６合目小屋～新７合目小屋～元祖７合目小屋（14:00　泊）
２日目：元祖７合目小屋（1:50）～9合5勺小屋（御来光　5：00）～頂上～剣が峰～8合目小屋～新５合目登山口（11:00/12:00）⇒富士宮駅（13:05/13：11）⇒我孫子駅(17:15)

＜8月＞

富士山（B吉田口）

(3776 m)

ﾘｰﾀﾞｰ川下敬史

やまなみ　青山寿子

「やっぱり富士は日本一の山」

8月25日（土）

5周年記念富士登山の8月25日、26日は富士吉田市は「火祭り」の行事があり、富士吉田駅から山神社までの歩道には企業協賛の数え切れない程の「たいまつ」が明日の出番を待っていた。残念ながら私たちは明日は御殿場へ下山なので見ることは出来ない。地元の伯母さんには富士吉田に下山するよう勧められるが・・。中の茶屋迄の2時間の歩道歩きのナント長いこと！！用意周到な人は運動靴持参の人も・・・。歩道歩きがこんなにも苦行難行とは予想外だった。「一合目に辿り着けるかしら？」との声もチラホラと出る。馬返しでの大休憩に全員満足する。柴さんの提案により一合目毎に記念撮影をすることにする。歩道歩きから解放され、樹木が深く気分が落着く。五合目御座石までは一合目毎に廃屋の茶屋跡があり、昔の富士講の賑わいを偲ばせる。滝沢林道に出て休憩していると若者二人に出会い「早朝に中の茶屋から富士山登頂し下山途中」とのこと。若さは素晴しい。佐藤小屋でコーヒータイムとなる。

七合目までは今までの静けさとうって変り、人、人、人・・。蟻の行列のごとく登山道に人があふれている。火山岩の急登を辿ると今夜の宿、七合目の「富士一」に到着。宿の主人はCLの知人の弟さんで、親切に高山病対策をアドバイスしてくれる。夕食後いろりを囲んで談笑する。出発時間、八合目までの歩行速度etc・・・。

8月26日（日）

小屋から富士吉田の街々の灯と満天の星空を見ながら出発。昨夜は騒音（話し声）で眠れなかったので大丈夫かな？（睡眠不足の人多数）。小屋の主人の助言どおり八合目まではゆっくりペースで登る予定が、渋滞がなくハイペースとなり慌てる。（高山病が怖い）。八合目で朝食を食べている間に日の出となり、気付いたときは雲の切れ間に日は昇っていた。本八合目でコーヒータイムとのことで小黒さんと二人で武内さん達を追いかけると、武内さん達には会えずに、須走り口コースの原田（君）さんパーティーと出会う。久須志神社（頂上）まで抜きつ抜かれつのランデブーとなる。久須志神社は下界の観光地と勘違いする程おみやげ店、人が多くびっくり！！お鉢巡りをめぐり、CLたちが口角泡をとばした結果、2班となり（お鉢巡り組・予定コース組）剣が峰で分れ、下山は別行動（結果は銀名水で一緒になり全員で下山）となった。剣が峰で富士山の歌を歌いバンザーイ！！日本最高峰3776m！！ヤッター。展望台に立つと飛行機から雲海を見ているような不思議な気持。剣が峰では測候所の解体が始っていて、富士吉田の火祭と合わせて記念すべき時期に登頂したのだと感慨深かった。下山は銀明水から御殿場口コースを下山。八合目迄は火山礫の急斜面をハイペースで下山するが滑りやすい。後を振返

ると頂上からのスロープが素晴しい。七合目からは砂走りとなりラストにいたので砂ぼこりに悩まされて、苦肉の策として全員（5 人）が横一列となる。砂走りはザクザクと気持よく下れて、雪の下りに感触が似ている。最初の一時間は楽しく下れたが後半の一時間は疲れてスピードが落ちる。大石小屋に近づくにつれイタドリが咲いていて殺風景な単一色から色彩が戻ってくる。大石小屋に到着したときは全身砂だらけの状態で小屋ではたきを借り砂を払う。余の汚れ具合にＣＬから「お風呂に入る」と提案があり、全員大喜び！！タクシーで御殿場の湯までとなるが、原田（君）さんのタクシー料金の交渉上手には脱帽！！

一 言 集

寒い季節に、新幹線に乗って東京駅から西に向かっていく時に冠雪の富士山がその雄大な姿を見せる。どうせ登るなら、残雪の時が１番いいと思い、今年５月に計画したが、残念計画倒。夏山は、やはり詰まらなかった。　　（柴 勇）

富士山は眺める山、でも日本一の山だから一生に一度は登らなくてはと思っていた。ならばと、駅から歩くコースにした。火祭りの準備をしている参道を歩き、浅間神社にお参りし、１合目より登る。古に多くの登山者で賑わったであろう朽ちた小屋があちこちにある。割れてもいない飯茶碗が哀れであった。古を思い、合を重ね山頂へ。そしてお鉢巡りも頂上小屋にストックを忘れたお陰で１週半。下山は名物砂走り。もう思い残すことのない富士登山であった。

（清家 美保子）

驚いたのが登山者の多さ、そして７合目に林立する山小屋。　６合目には観光用の馬がいて、きわめつけは旅館の呼び込み。８合目の小屋から小僧さんが「今夜はどちらへお泊りですか？」…。うーん、ここは一体どこ？しかし下から湧き上がってくる雲、広大な赤土の斜面……騒々しい人間の様子も関係なく、富士は雄大でした

（千葉有子）

富士吉田駅から富士山への道のりは遠く長かった。でもおかげさまでどうにか無事に登頂することが出来ました。馬返しから五合目まで歩けたのには感激です。還暦のよい記念になりました。ありがとうございました。（中村 美智子）

下から登っていったのは大変でしたが、お鉢巡りができたので良かった。　　（飯合しげ子）

単独峰で優美な裾野を広げる富士山。標高差三千メートル余のコースに参加させて頂きました。富士吉田駅を降りて歩き出すとドドーンと目前に両手を広げて私たちを迎えていました。途中厳しい状況の時もありましたがリーダーを始め皆様の激励により無事完歩する事が出来ました。感無量！！やはり大きな山でした。

（飯沼トミ子）

初日の途中でグロッキー寸前の状態になり、”日本一の高さ”を十二分に満喫しました。

（武藤邦芳）

５周年記念山行の、富士山シリーズには、延べ１１回（再挑戦の御正体山もふくめて）参加した。幸いどの山行も天気に恵まれ、東西南北全ての方向からの富士を楽しむことが出来た。どちらから見る富士も裾野をゆったりと広げ、その秀麗かつ優美な山容は見飽きることがなかった。そして８月、富士吉田駅から登って剣が峰に立ち富士山の大きさを実感した。残念ながら雲が多く、四方の山を見下ろすことは出来なかったが、日本最高所における雲上散歩は心地よく、シリーズの最後にふさわしい楽しい山行だった。　　（武内勇二）

あまり山行に参加できなかったが、やはり印象深いのは締めの富士山１合目からの登山（富士吉田駅から）である。めったにやる事もないだろし、あらためて富士山の大きさを感じる事ができて面白かった。２日がかりで延々と登りは登り、下りは下りの繰り返しで参りました。頂上では幸いにも好天に恵まれて良かったです。やはり大きいですね。　　（北川勝久）

概　　要

山行形式　山小屋一泊
期　日　平成13年8月25日、26日
参加数　12名
コ　ース
１日目：我孫子駅⇒富士吉田駅～浅間神社～中の茶屋～馬返し～三合目～佐藤小屋～7合目小屋（泊）
２日目：7合目小屋～本８合目～久須志岳～剣が峰～銀名水～7合目～（大砂走り）～新５合目５勺～大谷茶屋⇒ﾀｸｼｰ⇒御殿場温泉⇒ﾀｸｼｰﾀ⇒御殿場駅⇒我孫子駅

＜8月＞

富士山（C須走り口）
(3776 m)

ﾘｰﾀﾞｰ 原田君子

「ゆっくり、ゆっくり、亀さんで行こう。」

“頭を雲の上に出し、四方の山を見下ろして、雷様を下に聞く、富士は日本一の山。”
このテーマソング（？）を頂上 3776mで歌い、万歳三唱をやる。目的達成。あとは皆で無事に下山すること。心配していた酸欠による頭痛、吐き気もなく、素晴らしい仲間に恵まれて、自分では「もう登ることは無い」と思っていた富士山に登ってしまいました。

4年前、初めて富士山に登った時は「酸素不足で頭は痛い」「吐き気におそわれる」大変な思いをしながらの登頂でした。

富士山は、日本人の多くの人が一度は登りたい山だそうですが、私は、富士山は眺める山であって、けっして登る山では無いと思っていました。

昨年12月、5周年記念の行事として、皆で富士山に登ろうということになり、なぜか 4 コースの中の 1 つをリーダーとして指名され困惑しました。「え、なぜ私なの？」。二度と登らないと思っていた私に、どうして……困った、困った。と思いながら半年がアッという間に過ぎてしまいました。 とにかくリーダーとして計画書だけは出さなくては……参加される会員の方々に迷惑をかけないようにしなくては……そんな思いで8月24日を迎えることになりました。

須走口登山道も初めてで、ちょっと心配。富士山はどのコースから登っても、登山道は、シッカリしているので、迷うことはほとんど無いが、やっぱり酸欠による高山病は心配。 心強いサブリーダーと、仲間にささえられ、「ゆっくり、ゆっくり、亀さんで行こう。」を合言葉に 3776 mに向かって一歩、一歩、進みました。

山小屋に着いても、すぐには横にならず、ゆっくりお茶をいただき、夕食後も外でコーヒータイム。くつろいだ時間を過ごしましたが、小屋は超満員でゆっくり寝るスペースは有りません。

2 日目は、予定より 10 分早く出発。お天気にも恵まれ、「日の出も拝めるかもしれない。」そんな期待もしながら。ゆっくり、ゆっくり。頂上にむかって進みます。8 時、久須志神社に到着。風も無く、お天気も良いのでお鉢回りをして、剣が峰に。 剣が峰では、気象観測用ドームが、解体されていて、「永い間お役目ご苦労さん」という思いで見ました。

下山は御殿場コースを下ります。岩稜地帯を抜けると、ザクザクの砂礫道。砂礫に靴がもぐり、踏み込んだ一歩が、一歩半も進みます。早く下れて楽しいのは初めの 10 分、20 分も歩くと飽きてくる。30 分、まだつづく。「砂漠の中を歩いているの？」「道を間違えた？」何の変化も無い道をただただ下る。1 時間もザクザクと砂礫を歩いて、やっと大石茶屋。顔は真っ黒、洋服とザックは真っ白。ドロドロに汚れた富士山登山も、最後は温泉でサッパリと汗を流して帰途につきました。

やまなみ　由布仁子

登頂の喜びを、最高の笑顔で・・

御殿場から五合目、須走り登山口までバスで行く、体力温存コースに参加させてもらいました。

前夜は久振りの山登りと、日本一高い富士山に挑戦する緊張でなかなか寝つけず、はき慣れたはずの登山靴が重く感じられた。リーダー原田（君）さんの「ゆっくり時間をかけて上がりましょう。」の一言に、皆深くうなづきマイペースカメさん組の出発！！

20分も歩くと樹林帯を抜け、見上げると赤茶けた軽石の斜面が薄い雲のむこうまで続いている。たくさんのおん蓼やホタルブクロが咲いて、富士はもう秋の気配がする。ケイタイで富士吉田駅からのB班に連絡をとってみると、まだ五合目にも達していないそうで、やっぱり下界からは大変な距離だ。遠くから見ればなだらかな登りなのに、見えている小屋までナカナカ届かない。休憩時に酸素ボンベを試してみる事にした。まず斉藤さんが実演。めずらし物好きの私も早速やってみる。アレ？！吐息を出す穴を押さえる指と、酸素を出すボタンを押す指が同時に動いちゃうヨ。コレッてちょっとむつかし～い。それとも、もう高山病になったのかしら。原さんもやってみる。アレレ・・・息吸うのを忘れてるよ！皆でアーダコーダと楽しい予行演習でした。

15:00、七合目の宿泊地、太陽館に全員無事到着。八月最後の土日のせいか、ほぼ満杯。ざわつく夜にまた眠れず、3:50に小屋を出発したときは頭がボーっとしていました。しばらくはエンジンがかからず隊も乱れがちです。後方から「チョットマッテー。」の声がかかる。そのうち白み始めた空に残る星が思いがけない程輝いて見え、山靴が溶岩を踏むザックザックという音が続き、時折「フーッ」と大きく息をつくのが聞こえる。皆、頑張っているんだ。まわりが明るくなり、頂上から歓声が上がった。御来光だ！！見上げると山頂とその直下の登山道に人垣ができていて、あちこちからカメラのフラッシュがピカピカと光っている。すごい人の数だ。山頂にこれだけの人がいるのを見たのは初めてだ。

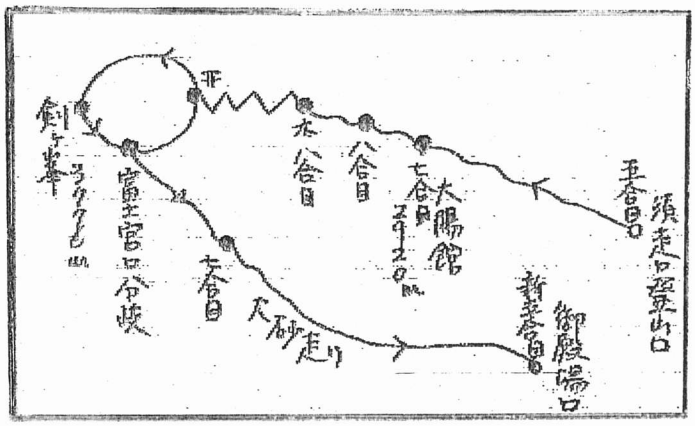
私たちは八合目で雲の中からの日の出を見る。さあ、あと一息、いや二息かな。山頂ではすっかり晴れ上がった空が私たちを待っていた。B班とも合同富士登頂の喜びを、お互い最高の笑顔で分かち合う。晴れた日に登った者だけに許されるお鉢めぐりを済ませ、最高地点の富士測候所では解体作業が始まる中、記念写真と万歳三唱、そしてあの歌を唱って正統な登頂祝いをしました。

下りは猛スピードの大砂走りで、最初ホイホイ、後の方では「もう飽きたー」。フカフカの細かいジャリの坂をまるで浮遊するかのように滑り下る感覚と、目の周り、口の周りに黒い輪をつけた友の顔は忘れられない富士の思い出となるだろう。

御殿場の湯で汗とホコリを流し、夏のイベント「岳人あびこ五周年記念山行」は終わった。

皆充実した疲れと共に帰路についた。素敵な仲間と岳人あびこにバンザイ、々、々。

PS　9月4日、平年より10日早く富士山頂に降雪がありました。



一言集

青空と眼下の雲と、見渡せば砂漠のような、砂礫の山肌。白いドームをめざしてのお鉢巡り、楽しかった砂走り。登りも下りも大変だったけれど、眺めて感動、登って感動、満点、大満足の富士登山。　　（高橋寿江）

C コースで参加いたしました。天候にも恵まれ、山頂ではお鉢めぐりもして日本一を、体験出来本当に良かったと思います。　富士は、登るよりも観る山だと　言われ自分でもそうかな？と思っていましたが　経験に勝るものはないと、実感しました。本当に、本当に！大きな山でした。　　（山本紫津子）

今回の富士山山行は原田君子ﾘｰﾀﾞｰより、ｻﾌﾞﾘｰﾀﾞｰを指名された山行きでした。
ﾒﾝﾊﾞｰ8名が、安全登山を行いそれぞれ人生のアルバムの1ﾍﾟｰｼﾞに記してもらいたいとの気持ちで、ﾘｰﾀﾞｰ・ﾊﾞｯｸｱｯﾌﾟが最大の狙いであった。
私個人の狙いは今回お鉢巡りをすること。
今回、目標をﾒﾝﾊﾞｰ全員で成し遂げたことに、最大の喜びを感じた山行でした。　　（斎藤清一）

1日目、我孫子駅から電車を乗継いで御殿場駅よりバスで須走登山口へ。登山口から七合目の小屋「太陽館」を目指して登り始める。ガスが出始め足下に注意しながら登る。下界は何も見えない。高度が上がるにつれて樹木が無くなり、富士山特有の石山となってきた。誰も高山病にならず無事山小屋に到着。小屋は満員で畳一畳に二人の状態だが、何とか朝を迎え出発の準備にかかる。
2日目、天気はよい。いよいよ日本一の頂き目指して出発。今日は夏休み最後の日曜日とあって人が多い。八合目を過ぎたあたりからB班と合流、頂上に無事到着、皆元気である。
一休み後、お釜巡り、剣が峰で万歳して下山へ。
御殿場口七合目からの大砂走りは大変であった。新五合目に着いたときは皆さんの顔、手が真っ黒。無事下山できて何よりでした。（高橋英雄）

富士山を登ったのにあまり感激はないの。日の出も見たヨ、きれいな星も。でもなぜか、嬉しいとかヤッターとか感激がないんだよね。ちょっと寂しいかな。100才の人が登っているの見たからかも・・・。私はあの方の半分の年です。まだまだかもしれない。私も100才になったらウルウルしながら、ヤッターと叫ぶかも・・・ね。そのときは又一緒にお願いします。
（原妙子）

やはり　富士山は大きい。下りの『砂走り』が面白かった。　（中村隆泰）

概　容

山行形式　山小屋一泊
期　日　平成13年8月25日、26日
参加数　8名
コース
1日目：我孫子駅（5:30）⇒御殿場駅（8:48/9/40）
⇒バス⇒須走口新5合目（10:40/11:15）～6合目～本7合目 太陽館（15:00　泊）
2日目：本7合目（3：50）～本8合目～山頂・久須志神社（8:00/8:30）～剣が峰～下山口～赤岩8合目～7合目～（大砂走り）～新5合目5勺～大谷茶屋（13:45/14:15）⇒ﾀｸｼｰ⇒御殿場温泉⇒ﾀｸｼｰ⇒御殿場駅⇒我孫子駅（20:40）

＜８月＞　特別寄稿

富士山
(3776 m)

川崎　清明

視覚障害者との富士登山

個人山行ですが、会の記念山行と同じ８／２５～２６日、川崎・坂口両名は職場の同僚と共に視覚障害者の３５才の男性高木君をサポートして河口湖ルートで富士山登頂を目指し、１７名全員無事登頂に成功しました。以下は高木君の感想です。

「生まれて始めての富士登山。しかも視覚障害を負ってからという事で不安もありましたが、当日が待ち遠しく、絶好の登山日和に恵まれ、参加者全員がアクシデントもなく登頂し、下山できた事が何より嬉しいです。」

「実際体感した率直な感想ですが、自分は富士山を甘く見ていました。まさかあんな岩場があって苦労するとは思いませんでしたが、高地でしか味わえないしーんと静寂した星が瞬く夜空、マイナス気温の頂上、山小屋での一泊、そして何よりも神秘的で幻想的な雲海に顔を出したご来光を拝むことが出来、涙しました。」

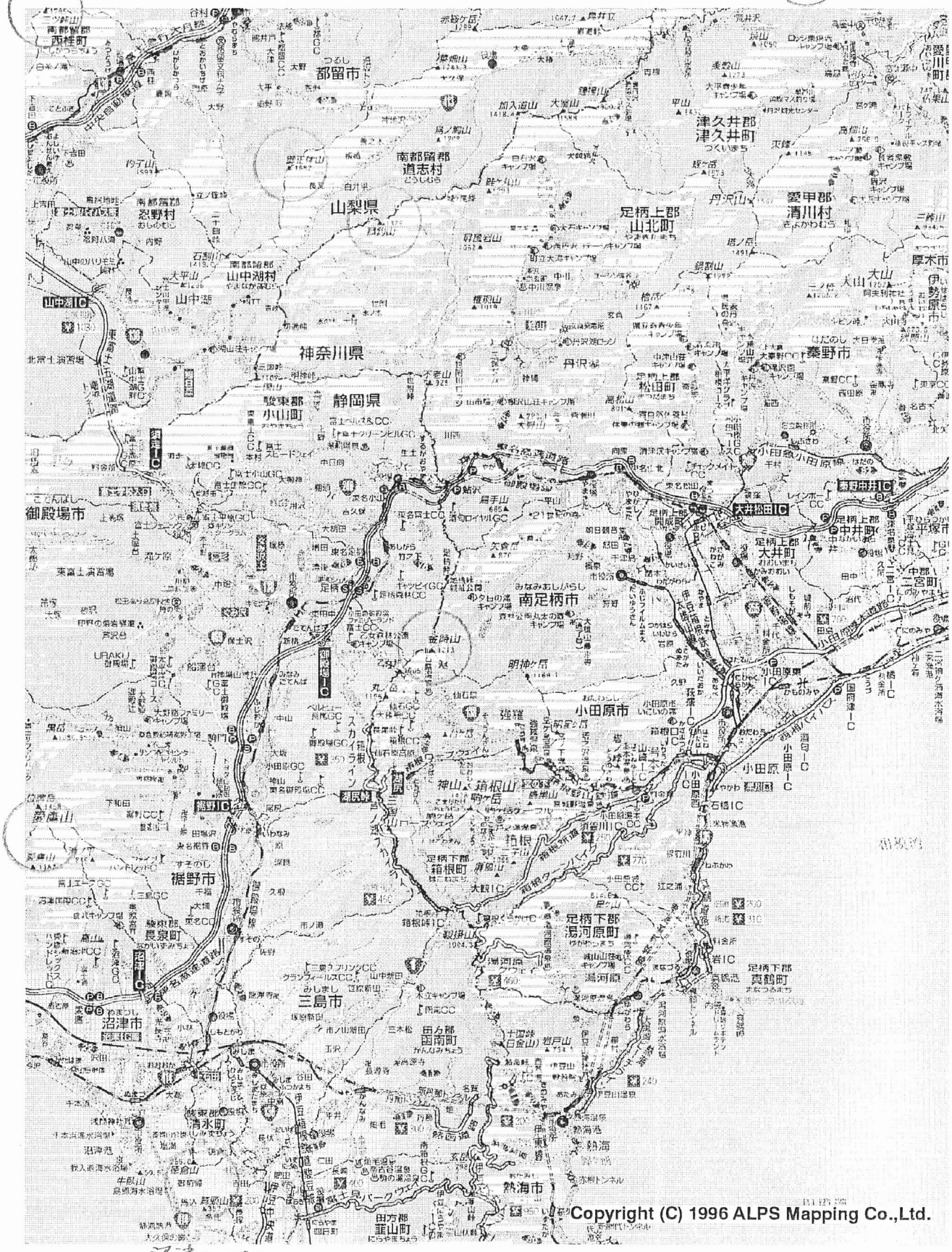
「皆さんの心温まるサポートで、一人では決して登れない日本最高峰の山を登ることが出来た事は、一生の想い出とともに今後の人生において力となり、支えとなるものと確信しています。またチャンスがありましたら他の山にも連れて行ってください。本当にありがとうございました。」

ある日職場の休憩室で私の山の話しに顔を輝かせた彼を見て、「高木君と富士山に登る会」をつくり同じフロアーで募集したところ、動機は様々ですが１７名の参加者が集まりました。登山の経験者は３名でしたが、視覚障害者との山行経験者はいない事もあって、サポートの習得、メンバーの体力把握を目的に２回の準備山行を行いました。

この準備山行で、一番大切な事は本人とサポーターとの信頼関係だと思いました。安定した表現での一歩一歩の指示は当然ですが、回りの地形や風景、植物、天候等の状況を出来るだけ伝える事によって登山そのものを共有し、「一緒に登る」ことが何よりも大切です。

準備山行と富士登山で私も沢山のことを学びました。彼のチャレンジングな姿勢や優れた感性は私の健常者としての日常を反省させるものでしたし、一番嬉しかったのは全員無事登頂出来たこともそうですが、彼がつらい経験をしながらも「他の山にも行きたい」と感想を述べたことです。

南巨摩郡
増穂町
南巨摩郡
鰍沢町
西八代郡
市川大門町
西八代郡
三珠町
東八代郡
芦川村
富士五湖
南都留郡
河口湖町
南都留郡
足和田村
西八代郡
六郷町
三方分山
猪道ヶ
西湖
勝山村
富士吉田IC
南巨摩郡
中富町
本栖湖
南巨摩郡
早川町
西八代郡
下部町
西八代郡
上九一色村
南都留郡
鳴沢村
富士吉田市
身延山
富士山
南巨摩郡
身延町
山梨県
静岡県
白糸の滝
富士宮市
富士郡
芝川町
南巨摩郡
南部町
南巨摩郡
富沢町
富士市
静岡市
富士川町
富士IC
由比町
清水市
由比
駿河湾


山梨県
神奈川県
静岡県
都留市
南都留郡
道志村
忍野村
山中湖村
山中湖IC
西桂町
津久井郡
津久井町
愛甲郡
清川村
足柄上郡
山北町
厚木市
秦野市
駿東郡
小山町
御殿場市
東富士演習場
足柄上郡
松田町
足柄上郡
開成町
足柄上郡
大井町
足柄上郡
中井町
大井松田IC
東名高速道路
小田原線
南足柄市
金時山
明神ヶ岳
強羅
小田原市
箱根山
駒ヶ岳
箱根
足柄下郡
箱根町
足柄下郡
湯河原町
足柄下郡
真鶴町
裾野市
長泉町
三島市
沼津市
田方郡
函南町
清水町
熱海市
田方郡
韮山町
Copyright (C) 1996 ALPS Mapping Co.,Ltd.

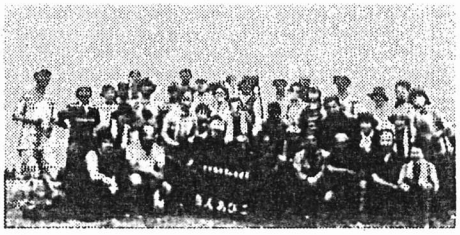
山行一覧表　　富士周辺の山と富士山（平成13年1月～8月）

No.	山　名	山　域	期　日	ｸﾞﾚｰﾄﾞ	ﾘｰﾀﾞｰ	参加者数
1	石老山(新年山行)	道志山塊	1月14日	A	村松(敏)・安田	28
2	三ツ峠一黒岳	御坂山塊	1月20日～21日	B	中村(隆)	12
3	金時山	箱根	2月11日	A	細野(清)	10
4	御正体山	道志山塊	2月27日/4月22日	B	安田	15　＊1
5	越前岳	愛鷹山塊	3月18日	A	武内	28
6	菰釣山	西丹沢	3月24日～25日	B	柴	8
7	沼津アルプス	東海	4月 1日	A	村松(峰)	19
8	蛾ガ岳一三方分山	御坂山塊	4月14日～15日	B	村松(敏)	12
9	長者ガ岳一天子ガ岳	天子山塊	5月20日	B	高橋(英)	16
10	毛無山一十二ヶ岳	御坂山塊	6月 2日	A	大串(秀)	14
11	思親山	天子山塊	6月 3日	A	斎藤	16　＊2
12	愛鷹山	愛鷹山塊	6月16日～17日	C	清家	8
13	雨ガ岳	天子山塊	7月 1日	A	外崎	10
14	八鉱嶺一七面山	南ア前衛	7月14日～15日	B	細野(省)	4
	富士周辺の山 延べ参加者数					200
15	富士山(A)河口湖コース		8月18日	B	日下	10
16	富士山(D)富士宮コース		8月18日～19日	B	榊原	11
17	富士山(B)浅間神社コース		8月25日～26日	B+	川下	12
18	富士山(C)須走りコース		8月25日～26日	B	原田(君)	8
	富士山 参加者数					40　＊3

＊1　2月の11名＋4月の6名の内、重複者2名を除いた
＊2　17名からゲスト1名を除いた
＊3　延べ41名から重複者1名を除いた

田部井淳子さんを迎え
発足5周年講演会

岳人あびこ



山に登ることが大好き仲間が集まって結成された「岳人あびこ」（外崎運会長）は、発足5周年記念として、9月9日午後1時30分からアビイホール（イトーヨーカドー我孫子店3階）で、登山家の田部井淳子さんを迎え「世界の山々の美しさ」をテーマに講演会を開く。入場料は1200円（前売り1000円）。

岳人あびこは96年、初代の会長三浦七郎さんら8人の同志で創立された。今では我孫子市民を中心に会員、会友合わせて68人が登山やハイキングなどを楽しんでいるほかに、一般市民を対象にした公開登山や障害者の人とのふれあいハイキングも実施して好評を得ている。

また、この会の理念の一つである環境保護の一環として、我孫子五本松公園の清掃、谷津田の草刈りなどを行い、地域との交流も積極的に取り入れている。

問い合わせ☎0471～88～7929原田さん。

東葛まいにち　2001年8月8日号　より